### 5. 参考資料

### 5-1. アンケート調査票

「サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査研究事業」

# 介護支援専門員調査票

### ■本調査の目的

- ・ 福祉用具貸与サービスの質の向上を目的に、福祉用具貸与事業所に対して、平成 24 年度に「福祉用具サービス計画」の作成が義務化され、その後、平成 30 年度には作成した「福祉用具サービス計画」を利用者だけでなく介護支援専門員へ交付することが義務づけられました。
- 今後は、福祉用具貸与事業所から交付された「福祉用具サービス計画」や福祉用具専門相談員が実施するモニタリングの結果を介護支援専門員が活用することで、多職種連携によるチームケアを促進していくことが期待されています。
- 本調査では、介護支援専門員による「福祉用具サービス計画」や福祉用具専門相談員が実施するモニタリングの結果等の活用状況、福祉用具専門相談員から得られる介護支援専門員にとって有益な情報等について実態を把握し、チームケアの促進に寄与すると考えられる情報や取組を整理し、現状の「福祉用具サービス計画」や「モニタリングシート」の見直し等の検討を実施することを目的としています。

### ■記入にあたってのお願いとご注意

- ・ 福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者を担当している介護支援専門員のうち、 主任介護支援専門員の方、または経験年数の最も長い介護支援専門員の方にご回答お願いします。
- 特に指定の無い限り、選択肢の番号1つを選んで○印をお付け下さい。
- ( ) の箇所には、具体的に言葉や数字をご記入下さい。
- 数字を記入する欄が0(ゼロ)の場合は「0」とご記入下さい。
- ・ ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒で**令和3年11月26日(金)までに**ご返送下さい。
- ・ ふくせん福祉用具サービス計画書、ふくせんモニタリングシートを同封しています。回答の必要に応じてご参照下さい。

### ■調査に関するお問い合わせ先

### サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査研究事業

調査実施主体 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会(ふくせん) 担当:中村、池本

〒108-0073 東京都港区三田 2-14-7 ローレル三田 404 号室

TEL: 03-5418-7700 FAX: 03-5418-2111 (平日 9時~18時)

### 1. 基本情報について※回答内容について確認事項が発生した場合のご連絡先として使用させていただきます。

(1)事業所名	(2)回答者名	
(3) メールアドレス	(4)電話番号	

### 2. 貴事業所について

	1. 都道府県、市区町村、広域連合·一部事務組合	
	2. 社会福祉協議会 6. 協同組合及び連合会	
(1) 開設主体	3. 社会福祉法人(社協以外) 7. 営利法人(株式·合名·合資・合同・有限会社)	
(1) 開設土14	4. 医療法人 8. 特定非営利活動法人(NPO)	
	5. 社団・ 財団法人 9. その他の法人	
	10. その他( )	
	1. 同一法人・系列法人が運営する福祉用具貸与事業所を併設している(同一建物ま	
(2) 福祉用具貸与	たは同一敷地内に福祉用具貸与事業所がある)	
事業所の併設	2. 同一法人・系列法人が運営している福祉用具貸与事業所があるが、併設ではない	
の有無 3. 同一法人・系列法人が運営する福祉用具貸与事業所はない(居宅介護支援事業所		
	以外は行っていない)	

### 3. あなた自身について

※この設問では、特に指定の無い限り、令和3年10月1日時点の状況について回答してください。

(1)	介護支援専門員として	( ) 年	
	の業務経験年数	※これまでの通算の経験年数(数か月は切り捨て)で回答してください。	

(2) 現在担当して	1).		介護	②介護予防	
いる利用者数	A. 現在担当している利用者数	(	)人	(	)人
※令和3年9月分	B. そのうち、福祉用具貸与サービスを居宅 サービス計画書に位置付けている利用者数	( )人		(	)人
(3) 連携している 福祉用具貸与	A. 日常的に関わりのある福祉用具貸与事業所	数	約(	)事	業所
事業所数	B. 日常的に関わりのある福祉用具専門相談員	に関わりのある福祉用具専門相談員の数		)人	

### 4. 居宅サービス計画書完成前の福祉用具専門相談員との連携について

※居宅サービス計画書に福祉用具貸与サービスを位置付ける場合、居宅サービス計画書完成前(原案作成時やアセスメント時)に福祉用具専門相談員と通常(緊急時等、特別な場合を除く)行っている連携(情報の提供、収集、共有)について回答してください。

有)	について回答してください。	
(1	) 福祉用具専門相談員と の連携方法 (Oはいくつでも)	<ol> <li>アセスメントの際に利用者宅への同行訪問を依頼する</li> <li>福祉用具専門相談員に単独訪問を依頼する</li> <li>利用者基本情報(フェースシート等)を提供し、意見・情報を求める</li> <li>居宅サービス計画書に記載予定の内容を提供し、意見・情報を求める</li> <li>退院・退所前カンファレンスへの出席を依頼し、情報提供や意見を求める</li> <li>サービス担当者会議への出席を依頼し、情報提供や意見を求める</li> <li>その他( )</li> <li>特にない → 5. ヘ</li> </ol>
(2	2) 福祉用具専門相談員へ提	2供している情報
	A. 利用者基本情報 (フェースシート等)で提供 している情報 (○はいくつでも)	1. 利用者の個人情報(氏名・住所・生年月日・年齢)       2. 既往歴         3. 主治医       4. 服薬情報       5. 生活歴       6. 支援経過         7. 医療情報(主治医・看護サマリー・リハビリテーション等)         8. 障害自立度       9. 認知症自立度         10. 身体状況・ADL       11. 家族状況(主介護者・緊急連絡先)         12. 住環境       13. 利用者・家族の希望         14. 認定情報(要介護状態区分、認定期間、認定審査会の意見等)         15. その他(       )         16. 特にない
	B. 居宅サービス計画書で 提供している情報 (○はいくつでも)	<ol> <li>総合的な援助の方針</li> <li>生活全般の解決すべき課題 (ニーズ)</li> <li>目標(長期目標・短期目標)</li> <li>援助内容 (サービス内容・サービス種別・頻度・期間)</li> <li>その他 ( )</li> <li>特にない</li> </ol>
(3	3) 福祉用具専門相談員から提供される情報のうち、居宅サービス計画書作成の参考にしている情報(Oはいくつでも)	1. 利用者・家族が困っていることや福祉用具に期待していること 2. 住環境整備提案情報 3. 福祉用具の複数提案における提案品目・機種(型式)・提案理由 4. 福祉用具の貸与価格情報 5. 利用者・家族による福祉用具選定の経緯 6. 福祉用具利用にあたっての留意事項 7. その他( ) 8. 特にない
(4	() 福祉用具専門相談員から提供される情報を参考に検討・作成している居宅サービス計画書標準様式の項目() () () () () () () () () () () () () (	1. 利用者及び家族の生活に対する意向を踏まえた課題分析の結果(第1表) 2. 総合的な支援方針(第1表) 3. 生活全般の解決すべき課題(ニーズ)(第2表) 4. 目標(長期目標・短期目標)(第2表) 5. 援助内容(サービス内容・サービス種別・頻度・期間)(第2表) 6. 週間サービス計画表(第3表) 7. 居宅介護支援経過記録(第5表) 8. その他( )

### 5. 居宅サービス計画書完成後の福祉用具専門相談員との連携について

※以下は、**直近で福祉用具専門相談員から受領した**「福祉用具サービス計画」について回答してください

<ul><li>(1) 居宅サービス計画書に示した情報のうち、「福祉用具サービス計画」に反映されている項目(○はいくつでも)</li></ul>	1. 利用者の身体状況・ADL5. 総合的な援助方針2. 利用者の介護環境6. 生活全般の解決すべき課題・ニーズ3. 利用者の住環境7. 目標(長期目標・短期目標)4. 利用者及び家族の生活に対する意向(を踏まえた課題分析の結果)8. その他(
(2) 「福祉用具サービス計画」に記載されている「福祉用具利用目標」の記載内容(○はいくつでも)	1. 居宅サービス計画書の目標に紐づいた福祉用具利用目標が記載されている →具体的な記載状況(○はいくつでも) 1. 選定された福祉用具と福祉用具利用目標が紐づけられている 2. 目標の達成度合が把握できるような利用状況・利用頻度等が5W1Hで記載されている 3. 目標の達成度合が把握できるような数値目標が記載されている 4. その他( ) 2. 居宅サービス計画書の目標に紐づいた福祉用具利用目標が記載されていない

※以下は、**これまでに福祉用具専門相談員から受領した**「福祉用具サービス計画」の通常の活用について回答してください

1. 介護支援専門員として実施するモニタリング評価時に活用している	; ;
2. 居宅サービス計画書見直しの要否を判断する際に活用している	
3. 居宅介護支援経過記録に活用している	
4. サービス担当者会議での検討事項に活用している	
5. リハビリテーションの検討において、リハ職(PT,OT,ST)との情	報共有
にも活用している	
6. 認知症やターミナルケアの利用者のケアにあたり、ケアチームの情	青報共有
にも活用している	
7. その他(	)
8. 活用していない <b>→ (4) へ</b>	
1. 活用したい情報が共有されていない	
2. 記載されている情報がわかりづらい・活用しづらい	
3. 活用する必要がない	
4. その他(	)
5. 特にない	
	<ul> <li>3. 居宅介護支援経過記録に活用している</li> <li>4. サービス担当者会議での検討事項に活用している</li> <li>5. リハビリテーションの検討において、リハ職 (PT,OT,ST) との情にも活用している</li> <li>6. 認知症やターミナルケアの利用者のケアにあたり、ケアチームの情にも活用している</li> <li>7. その他 (</li> <li>8. 活用していない → (4) へ</li> <li>1. 活用したい情報が共有されていない</li> <li>2. 記載されている情報がわかりづらい・活用しづらい</li> <li>3. 活用する必要がない</li> <li>4. その他 (</li> </ul>

※以下は、**これまでに福祉用具専門相談員から受領した**「福祉用具サービス計画」の記載内容について回答してください

介護支援専門員に交付が義務付けられている「福祉用具サービス計画」には、①利用者の基本情報、②福祉 用具が必要な理由、③福祉用具の利用目標、④具体的な福祉用具の機種と当該機種を選定した理由、⑤その 他関係者間で共有すべき情報の記載が必要とされています。

(5) 「福祉用サービス計画」の記載内容に対する評価			
A. 利用目標(福祉 用具利用目標)	<ul> <li>1. 現状の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>2. 現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい →わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)</li> <li>1. 「自立支援」「介護者負担軽減」等、目標の位置づけが把握できるとよい</li> <li>2. 数値目標等、目標の達成状況が評価しやすい記述があるとよい</li> <li>3. 利用する福祉用具と福祉用具利用目標の紐づけがわかりやすいとよい</li> <li>4. 福祉用具的な使用場面・用途・利用頻度の記載があるとよい</li> <li>5. 福祉用具別の具体的な利用安全に関する記載があるとよい</li> <li>6. その他(</li> </ul>	,\	
B. 福祉用具の機種 と当該機種を選択し た理由(選定理由)	<ul> <li>1. 現状の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>2. 現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい →わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)</li> <li>1. 機種別の特徴や違いが簡易に把握できるとよい</li> <li>2. 選定理由を簡易に把握できるとよい(カテゴリーを表記する等)</li> <li>3. 利用する福祉用具と福祉用具利用目標の紐づけがわかりやすいとよい</li> <li>4. その他(</li> </ul>	)	

# 1. 現状の記載方法で十分理解・活用できる 2. 現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい →わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも) 1. 利用者や家族に対する福祉用具利用上の留意事項 2. 利用者の服薬や疾患、生活習慣など個別の状況に配慮した注意事項 3. 誤操作や事故の危険性についての注意事項 4. 福祉用具専門相談員によるメンテナンスやモニタリング等の次回予定などの連絡事項 5. その他( ) D. 上記以外に利用者の基本情報として福祉用具専門相談員に把握しておいて

※以下は同封の「ふくせん福祉用具サービス計画書」について回答してください

もらいたい事項・要望(自由記述)

※以下は同封の「ふくせん福祉用具サービス計画書」について回答してください				
(6) 現状の「ふくせん	し福祉用具サービス計画書(基本情報)」の項目に対する評価			
	1. 現状の項目で十分理解・活用できる			
A. 身体状況・ADL	2. 現状の項目では不足している			
	3. 自身で把握している情報のため不要である			
	1. 現状の項目で十分理解・活用できる			
B. 介護環境	2. 現状の項目では不足している			
	3. 自身で把握している情報のため不要である			
	1. 現状の項目で十分理解・活用できる			
C. 意欲・意向等	2. 現状の項目では不足している			
	3. 自身で把握している情報のため不要である			
	1. 現状の項目で十分理解・活用できる			
D. 住環境	2. 現状の項目では不足している			
	3. 自身で把握している情報のため不要である			
   E. 上記以外に利用者	の其木情報として			
福祉用具専門相談員は				
もらいたい事項・要望				
(7) 田址の「7 / 4 /				
(/) 現状の 1かくせん	√福祉用具サービス計画書(選定提案)」の項目に対する評価 「4」 現場の項目では、10円線 「近日本土」			
A. 福祉用具が必要	1. 現状の項目で十分理解・活用できる			
な理由	2. 現状の項目では不足している			
	3. 提案した理由の書類を受領・活用することがないためわからない			
B. 提案する理由	1. 現状の項目で十分理解・活用できる			
	2. 現状の項目では不足している   3. 選定提案の書類を受領・活用することがないためわからない			
」、 歴紀派系の首様で又限・石田することがないにめれカルでない				
C. 上記以外に利用者に複数提案を行う				
際の福祉用具専門相談	<b>炎員への要望等</b>			
(自由記述)				

### 6. 福祉用具専門相談員が実施しているモニタリング結果の活用について

以下は、福祉用具専門相談員が実施しているモニタリングについて、情報共有等の状況について回答してください。 介護保険の福祉用具貸与は、福祉用具専門相談員が必要に応じて利用者の居宅を訪問し、身体状況や住環境 等を確認することによって、適時・適切な福祉用具を選定し、利用安全を確保する(モニタリング)ことと されています。

(1)	(1) 福祉用具専門相談員が 実施するモニタリング	※福祉用具員与リーに人を店もリーに人計画書に位直的けている利用者のうち、それぞれにあてはまる利用者の割合を、A と B の合計が 10 割になるように、整数で回答してください。					
	結果の共有状況	A. 共有がある	約(	)割	B. 共有がない	約(	)割

※上記	己(1)で「A.共有がある」	が「0」割と回答された方は、(3) および (8) 以降にご回答ください。	
		A. モニタリングシート等による記録の共有 約( )割	
(2)	具体的な共有方法	B. 口頭のみの共有 約( )割	
		C. その他の手段での共有 約( )割	
(3)	共有の必要性	1.全ての福祉用具貸与事業所に共有してもらいたい 2.共有すべき事項があるときのみ報告してもらえればよい 3.福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果は必要としてい 4.その他(	かない
(4)	福祉用具専門相談員が 実施したモニタリング 結果の活用場面(○は いくつでも)	<ol> <li>介護支援専門員として実施するモニタリング評価時に活用している</li> <li>居宅サービス計画書見直しの要否を判断する際に活用している</li> <li>福祉用具貸与サービスの見直しの要否を判断する際に活用している</li> <li>福祉用具貸与サービス以外の見直しの要否を判断する際に活用し</li> <li>居宅介護支援経過記録に活用している</li> <li>サービス担当者会議での検討事項に活用している</li> <li>福祉用具貸与サービス以外のサービス事業所との情報共有に活用</li> <li>その他(</li> <li>活用していない → (7) へ</li> </ol>	1る ,ている 1している )
(5)	福祉用具専門相談員が 実施したモニタリング 結果において、参考と している情報 (Oはいくつでも)	<ol> <li>福祉用具サービス計画の見直し(継続・再検討・中止)を提案する</li> <li>利用者の身体状況・ADLの変化</li> <li>利用者の意欲・意向等の変化</li> <li>介護環境・住環境の変化</li> <li>機器使用上の事故、ヒヤリ・ハットの有無</li> <li>その他(</li> </ol>	る理由
(6)	福祉用具専門相談員が 実施したモニタリング 結果を得ることによる 効果(○はいくつで も)→回答後(8)へ	<ol> <li>福祉用具の変更の必要性等に気づくことができる</li> <li>住環境整備の必要性等に気づくことができる</li> <li>利用安全(事故・ヒヤリハット等の予防)が担保できる</li> <li>利用者・家族の変化等の情報が得られる</li> <li>その他(</li> <li>特にない</li> </ol>	)
	で「9.活用していない」を た方のみ回答】 活用していない理由 (○はいくつでも)	<ul><li>1. 活用したい情報が共有されていない</li><li>2. 共有される情報がわかりづらい・活用しづらい</li><li>3. 福祉用具専門相談員のモニタリング結果は活用する必要がない</li><li>4. その他(</li><li>5. 特にない</li></ul>	)
(8)	福祉用具専門相談員が実 ニタリング結果において ている情報や視点(自由	不足し	

### ※以下は同封の「ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)」について、回答してください

(9)現状の「ふくせんモニタリングシート」の項目と評価指標に対する評価				
A. 福祉用具利用目	<ul> <li>1. 現状の「達成・一部達成・未達成」の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>2. 現状の「達成・一部達成・未達成」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい→わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)</li> <li>1. 達成度の基準が示されているとよい</li> </ul>			
標の達成度	2. 点数等、数字で達成状況が示されているとよい3. その他(3. 達成度の記載は不要である4. その他(			

現状の「ふくせんモニ	[タリングシート] の項目と評価指標に対する評価	
B. 利用状況の問題	<ul> <li>1. 現状の「なし・あり」の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>2. 現状の「なし・あり」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい→わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)</li> <li>1. 「あり」の具体的な問題が記載されているとよい</li> <li>2. 利用頻度が記載されているとよい</li> <li>3. 利用場面が記載されているとよい</li> <li>4. その他(</li> <li>3. 利用状況の問題の記載は不要である</li> <li>4. その他(</li> </ul>	)
C. 点検結果	<ol> <li>現状の「問題なし・問題あり」の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>現状の「問題なし・問題あり」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい→わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)</li> <li>「問題あり」の具体的な問題が記載されているとよい</li> <li>「問題あり」で実施した対応内容が記載されているとよい</li> <li>その他(</li> <li>点検結果の記載は不要である</li> <li>その他(</li> </ol>	)
D. 今後の方針	<ol> <li>現状の「継続・再検討」の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>現状の「継続・再検討」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい →わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)         <ol> <li>福祉用具利用目標別に計画見直しの必要性が記載されているとよい</li> </ol> </li> <li>福祉用具別に計画見直しの必要性が記載されているとよい         <ol> <li>その他(</li> </ol> </li> <li>現状の「継続・再検討」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい             <ol></ol></li></ol>	)
E. 身体状況・ADL の変化	<ol> <li>現状の「なし・あり」の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>現状の「なし・あり」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい→わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)</li> <li>確認した結果が記載されているとよい</li> <li>前回モニタリング実施時からの変化が記載されているとよい</li> <li>その他(</li> <li>身体状況・ADLの変化の記載は不要である</li> <li>その他(</li> </ol>	)
F. 住環境の変化	<ol> <li>現状の「なし・あり」の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>現状の「なし・あり」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい→わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)</li> <li>確認した結果が記載されているとよい</li> <li>前回モニタリング実施時からの変化が記載されているとよい</li> <li>その他(</li> <li>住環境の変化の記載は不要である</li> <li>その他(</li> </ol>	)
G. 意欲・意向等の 変化	<ul> <li>1. 現状の「なし・あり」の記載方法で十分理解・活用できる</li> <li>2. 現状の「なし・あり」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい →わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)         <ol> <li>1. 確認した結果が記載されているとよい</li> <li>2. 前回モニタリング実施時からの変化が記載されているとよい</li> <li>3. その他(</li> </ol> </li> </ul> <li>3. 意欲・意向等の変化の記載は不要である</li> <li>4. その他(</li>	)

	1. 現状の「なし・あり」の記載方法で十分理解・活用できる									
	2. 現状の「なし・あり」の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい									
	→わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)									
H. 家族の状況の変	1. 確認した結果が記載されているとよい									
化	2. 前回モニタリング実施時からの変化が記載されているとよい									
	3. その他(	)								
	3. 家族の状況の変化の記載は不要である									
	4. その他(	)								
	1. 現状の記載方法で十分理解・活用できる									
	2. 現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい									
	→わかりやすい・活用しやすい記載方法(○はいくつでも)									
1. 福祉用具別に計画見直しの必要性が記載されているとよい										
1. 総合計価	2. 福祉用具利用目標別に計画見直しの必要性が記載されているとよい									
	3. その他(									
	3. 総合評価の記載は不要である									
	4. その他(	)								
(10) 「ふくせんモニ	ニタリングシート」に加えると良い項目(Oはいくつでも)									
1. メンテナンス内容	冬、安全性に対する処置等 2. 誤操作・誤使用の有無									
3. 誤操作・誤使用の	D内容やそれに対する再指導等の対応内容 4. ヒヤリ・ハットの有無									
5. ヒヤリ・ハットの	D具体的な内容やそれに対する再指導等の対応内容									
6. 利用者・家族が係	吏用中に困ったこと等の聞き取り内容 7. 利用者・家族の福祉用具利用の満別	足度								
8. 福祉用具導入後の	8.福祉用具導入後の生活全般に関わる変化 9.身体状況・ADL の項目別の確認結果									
10. 介護支援専門員の	と福祉用具専門相談員、双方への連絡事項記入欄									
11. その他(		)								
12. 特にない										
/\										
(11) 福祉用具専門相										
施するモニタリ 要望等(自由記										
女主守(口四礼	安主守(日田記述)									

### 7. 福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントについて

居宅サービス計画書に福祉用具・住宅改修サービスを位置付けるにあたり、回答者様ご自身が、特に重視している項目についてそれぞれ**最大3つまで**○をつけてください。

いる項目について	てれてれ <b>取入3 )まじ</b> しを )り (くたさ	C V 10
	1. 営業担当の訪問回数	7. 土・祝日の対応
	2.納品(対応)のスピード	8.緊急時(日曜・深夜)対応
   (1)  営業体制	3. 品質(消毒・補修)	9. カタログなど福祉用具に関する資料の充実
(1) 百条件例	4. 取扱商品の豊富さ	10. 住宅改修の対応
	5. デモ対応	11. その他 (
	6. レンタル価格	J
	1. 福祉用具や利用事例に関する情報	提供・相談対応
	2. アセスメント(利用者・環境の評	価) 3. 用具の選定、提案、利用計画の作成内容
  (2) 業務遂行	4. 福祉用具の適合調整・利用指導	5. 搬入・設置・搬出の円滑実施
	6. フォロー、モニタリング	7. 利用者・家族とのコミュニケーション
能力	8. 困難事例への対応力	9. サービス担当者会議での発言・提案
	10. ケアマネジャーとの連携	
	11. その他(	)
	1. 介護保険サービスの知識	2. 福祉用具、新製品の知識
	3. 高齢者の日常生活に関する知識	4. 介護技術、リハビリテーションに関する知識
(3)専門知識	5. 住環境と住宅改修に関する知識	6. 認知症に関する知識
	7. 高齢者の身体特性、疾病・疾患に	関する知識
	8. その他(	)
(4) その他		
(自由記述)		
(日田心处)		7 = "14 1 + 10 1 2 1 - = "1" + 1 +

以上で調査は終了です。お忙しいところご協力ありがとうございました。

### 5-2. 改編様式

(1) ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)

	2	/ ++ L	女声 女庫 F	# 6 +	ビッ:	4 161				管理番号		(No. )
	ふくせん 福祉用具サービ (基本情報)									作成日		
			八本	4月	取り					福祉用具 専門相談員名		
フリガナ			***************************************	性別	生年月	日	年齢	要介護	变		認定期間	
利用者名			様	ŧ	M·T·S 年	月日					~	
住所										TEL		
居宅介護支援事	事業所								担当	<b>áケアマネジャー</b>		
意欲	大や意	向∙相談	内容							•		
					口利用	者から	確認した	Ė		家族•介護都	<b>針から確認し</b> が	3
		意向,今困 期待する	っているこ ことなど)									
疾病•痰	<b></b>											
禁忌·注	意事											
項 • 服 <u>率情</u> :	報等											
身体:	状況・∕	ADL	(	年	月)現在	艮	目節可動域	障害		あり(		) 口 なし
身長		cn	体重		kg	Б	麻痺•筋力·	低下		あり(		) 口 なし
寝返り	_ つかま _ ででき	つかまらない の何かにつかま ロー部介助 ロできなでできる ればできる					高次脳機能			あり(		) 口 なし
起き上がり	_ つかま ででき	つかまらない ロ 何かにつかま ロ 一部介助 ロできた でできる ればできる					号日常生活			なし 🔲 アルン	□A1 □A2 □B1 ソハイマー型 [	」 血管性
立ち上がり	っつかま ででき	つかまらない					認知症の有無 □ レビー小体型 □ その他( 認知症の日常生活自立度 □自立 □ I □ II a □ II b □ II a □ II					
移乗	自立	П		□ 一部介助	□ 全介助	認知症	特記事:		口自:	立 □ I □ II a	□Ib □IIa l	
座位	ロできる		自分の手で支えればできる	支えてもらえ ロ ばできる	れ □ できない	(医	医療情報以外)					
屋内歩行	□ つかま □ ででき		ーーーー 何かにつかま ればできる		□ できない		介護	環境				
屋外歩行			回かにつかま	□ 一部介助	□ できない	家	族構成				主介護者	*
	自立	_		□一部介助	□ 全介助		サービス	ζ				
排泄	自立口(介助7	なし) ロリ	見守り等 [	□ 一部介助	□ 全介助		用状況					**************************************
入浴	□ 自立 □ (介助 <sup>7</sup>	なし)	見守り等	□一部介助	□ 全介助	福	している 祉用具					
食事	□ 自立 □ (介助 <sup>7</sup>	なし)	見守り等 [	□一部介助	□ 全介助		、品含む 	)				
更衣	□ 自立 □ (介助 <sup>7</sup>	なし) ロリ	見守り等 □	□ 一部介助	□ 全介助	特	記事項					
意思の伝 達							住耳	環境				
視覚								貸 合住宅 (	階)			
聴覚	□ 聞こえ	.る □ 大き	な声で話せ 引こえる	」 ほとんど聞 えない	こ □ 聞こえない	正女	υ · <b>υ</b> <i>γ</i> γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ γ			一タ 口階		ru /
転倒•転落	車	<b>云</b> 倒	ロなし	ロ あり	→ □ つまづ	き 🗆	すべり	□ その	D他	(		)
の経験	較	落	□なし	□ あり	→ □ 階段	口 玄関	関 口 足	沓み台「		の他(		)
活動・	外出	<sup>出</sup> 頻度	□ ほぼ毎	∄日	□ 週1回	以上		□ 月1	回以	上	□ 月1回	未満
参加	外出	目的等										

٠					30	- 1		0.0		- 1								2.			100	- 1		- 1	30	30	. : -	0.00	-:-		
٠	4			-	10			0.5	b*:	• 0	-0-		- 10			7	-	ο.		- :		• 0		20	16	3.1	• ; •	0.0	• : •	0.00	
•				ℯ.	-		ь.	• 7	٠.	٠.,				e Be	الساف	160		г.	-			-	_	7.	20	٠.			٠. ٠		
٠.	٠.	ė.	- 38	46	ы			F/ :		1		. =		<b>.</b>		13.0	: .	461	133	1-7	- 6	7.	•	4		10	9-1	_		<b>.</b> :	
z	a	N			-	•	•	N.	10.7			-	<b>15</b> 11	- 14	-	100	-J.	• 1			110			ø.	11	20	40			7.	
ч.		м	٠.,	-	2.4	_		٠.	-				H 18		_	1.7	P .	- 0							ж.					 	

管理番号	
利用者氏名	
福祉用具 専門相談員名	

		福祉用具 専門相談員名	
介護支援専門員・他職	。 は種との連携、担き	当者会議、支援経過等の	情報
年月日 対応者		内容	
	l		
福祉用具	具の利用で改善が	期待できるADL	
【暫定の福祉用具種目・住宅改修】	【改善が期待でき るADLの項目】	【改善が期待できる	ADLの評価(見込み)】
福祉用具貸与	□ 寝返り	□ つかまらな □ 何かにつ □ いでできる □ ればでき	かま □ 一部介助 □ できない
□ 車いす □ 車いす附属品	 □ 起き上がり	つかまらな 何かにつ いでできる ればでき	
□ 特殊寝台附属品	□ 起き上がり		
□ 床ずれ防止用具 □ 体位変換器 □ 手すり(□置き型 □垂直式 □トイレ用)	□ 立ち上がり	っかまらな 何かにつ いでできる ればでき	かま □ 一部介助 □ できない る
□ 手すり(□置き型 □垂直式 □トイレ用) □ スロープ(□固定式 □携帯式)	□ 移乗	自立 □ 見守り等 (介助なし)	□ 一部介助 □ 全介助
□ 歩行器 □ 歩行補助つえ □ 認知症徘徊感知機器 □ 移動用リフト	□座位	□ できる □ 自分の手 □ えればでき	で支 支えてもらえれ ロできない きる ばできる
□ 自動排泄処理装置	□ 屋内歩行	ロウかまらな ログかにつ いでできる ればでき	かま ロー部介助 ロできない る
福祉用具販売  □ 腰掛便座  □ 入浴補助用具	□ 屋外歩行	□ つかまらな □ 何かにつ □ いでできる □ ればでき	かま ロー部介助 ロできない る
□ 簡易浴槽 □ 移動用リフトの吊り具部分	□ 移動	□ 自立 □ 見守り等 (介助なし)	□ 一部介助 □ 全介助
□ 自動排泄処理装置の交換可能部品 □ 排泄予測支援機器	□排泄	□ 自立 □ 見守り等 (介助なし)	□ 一部介助 □ 全介助
住宅改修	□ 入浴	□ 自立 □ 見守り等 (介助なし)	□ 一部介助 □ 全介助
□ 手すりの取り付け □ 段差の解消	□ 食事	自立 見守り等	□ 一部介助 □ 全介助
□ 床材の変更 □ 扉の取り換え	口 文字	白立	
□ 便器の取り換え □ その他付帯工事	□ 更衣	□ 自立 □ 見守り等 (介助なし)	□ 一部介助 □ 全介助
判断するにあたり参考となる情報を得た場面	□ 担当者会議	□ 介護支援専門員と	の同行訪問
では、 できる できる できる (日本の日本の日本の日本の) 日本の	□ 単独訪問	□ その他 (	)
		<u> </u>	
【家屋(居室を含む)の概		【屋内外•周	辺環境で注意すべきポイント】

### (3) ふくせん福祉用具サービス計画書(利用計画)

	ふく	せん ネ	<b>事祉</b> 屏	具サ	t	ゴス計画	書(利)	用計证	画)	管3	理番号				
フ	リガナ	+1				性別	生年月	日	年齢	要介護度			認定期間		
利	用者名				様		M·T·S 年	月日					~		
	宅介護 爰事業所							担当ケア	マネジャー		•		見直し期間プランに準拠)		長期 短期
4		股の解決す							福祉/	<b>用具利用目</b> 目】を使っ	標で【生活場	面】の	【何の動作】	が	
	(確	証刑具が	必要な増	<b>!</b> ## )		最も重視す	る目的			【どの程度】	【可能に	なる】を	明記する)		
1						心身機能の 介護負担の		-							
_						自立支援									
2						小護負担の		1							
3						心身機能の		1							
4						心身機能の 介護負担の									
ì	選定福	福井具(レ	ンタル	・販売)									(	/	枚)
		品目		単位数			etr o Fulb ett 1	78 JA 0 F		定理由		~ L. I L	144 THE 42 VIII (41)		
		機種(	型式)			(記載例:利用	者の【状態】、	環境の[	宋件』を7	写慮し、【機能	で特性』を	活かした	:機種を選正し	<b>,ました</b>	. )
			Anada												
							· 拉尔-基- 7	E 15							
	(福祉用	具を安全に	利用するた	-めに特に注	<b>意が</b>	必要な事項、日	留意 日常の衛生管		る留意点	、認定審査会	きでの意見	、次回0	<b>りモニタリング</b>	の時期	等)
		410. 4									ı				
	<b>私は、</b> けまし		哺となる	福祉用具の	の全	国平均貸与値	価格等の説!	明を受		日付			年 .	月	日
		貸与の候 <b>补</b> ました。	哺となる	機能や価材	各の	異なる複数の	福祉用具の	り提示	ا	署名					印
		福祉用具で			容に	ついて説明を	受け、内容	に同意	(続柄)	代筆者名	(	)			印
事業	業所名						_	福	祉用具専門	相談員			_		
住	所							TEL			F	AX			

### (4) ふくせんモニタリングシート (訪問確認書)

# ふくせん モニタリングシート (訪問確認書)

管理番号		(		/	枚	)	
モニタリング実施日		年		月		日	
前回実施日		年		月		日	
お話を伺った人	利用者		家族		他(		)
確認手段	訪問		電話	i			
事業所名							
福祉用具専門相談員							

		ן ניין נען /	ᄑᄱᅜᅟᆖ	/			1年前心。	丁+>	ζ [			电站	1	
							事業	听名	1					
							福祉用具専	門	相談員					
							3							8
	フリガナ				居宅介護支援事業	脈							担当 マネジャー	
	利用者名						1			L 11= 0	-	77.		
	利用有石				要介護度				認力	官期間	1		~	
	의 마 뉴 시	BB/00\	74 FT 88 44	#1 m 45 m				- 31			·	1		
		用具(品目)	利用開始年月日	利用状況	= 44.46.46	e.i.i	m d b am		<b>利用状况</b>		ンテナ		今後σ	)方針
	() () () ()	(型式)	十万日	の変化	具体的な	FJ,	用状况	ä	平価結果	:   ン	ス結果		Abl A+	
				□場所 □頻度	_				問題なし		問題なし		継続 中止を	+4-=4
1				□ 使用方法	9						-		追加を	
				□使用力法□□安全性					問題あり		問題あり			で映画 交換を検討
				□場所									継続	文揆で快引
				□頻度	_				問題なし		問題なし		中止を	<b>*</b>
2			1	口使用方法									追加を	
				□安全性	1				問題あり		問題あり			交換を検討
				口場所				_			DD DT / .		継続	VIX CIX III
				□頻度				Ш	問題なし		問題なし		中止を	·検討
3			1	□使用方法	*				8885 + 11		8885+11		追加を	
				□安全性				Ш	問題あり		問題あり		変更•	交換を検討
				□場所					問題なし		問題なし		継続	
4			,	□頻度	o.			ш	印度なり		円屋なり		中止を	
•				口使用方法				П	問題あり		問題あり		追加を	
				□安全性				_	1-1/2077		1-1/20077			交換を検討
				□場所					問題なし		問題なし		継続	14=1
⑤				□頻度 □使用方法	_				-		-		中止を	· <b>検討</b>
_				口使用方法					問題あり		問題あり	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	追加を	
				□歩宝性								무	継続	交換を検討
				□頻度					問題なし		問題なし		極税 中止を	<b>拾計</b>
6			1	□使用方法	-						-		追加を	
				口安全性					問題あり		問題あり			交換を検討
				口場所				_			BB BT / .		継続	AIX CIXIII
				□頻度	•			Ш	問題なし		問題なし		中止を	検討
7	"			口使用方法	~				問題あり		8885七八		追加を	
				口安全性				Ш	问起めり		問題あり		変更・:	交換を検討
				□場所					問題なし		問題なし		継続	
8			]	□頻度				ш	同歴なし		同歴なし		中止を	
U				□使用方法				П	問題あり		問題あり		追加を	
				口安全性				ш	F1/62/07/7		F1/22077		変更・	交換を検討
								F	目標達成	状況	l			
		福祉用具利用目	橝			和	自·品目	_	- 120.000.000			_		
		[M 177.1326.13319 M	IN		達成度		更の検討				詳組	H		
					□達成									
1					□ 一部達成		なし							
•					□ 未達成		あり							
					□違成		1							
2					□ 正成□ □ 一部達成		なし							
_							あり							
					□ 未達成									
9					□ 圧成		なし							
3							あり							
					□未達成	_								
_					□達成		なし							
4					□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□		あり							
					□ 未達成	Ц	039							
		4	ケアプラン	ノの目標に対	する福祉用具	サ	一ビスの紛	合	評価					
-							「福祉用」			計画	見 直	150	いての	)音目
13	福祉用具サービ	ス計画」見直しの	必要性	ロなし	□ あり						引用継続の			
		□ ADLの維持・向	1上ができ	ているため利	用継続									
		□ 生活範囲の維	***************************************											
	「なし」と	□ 介護負担軽減												
1	判断した理由	□ 状態変化を見			, 13 43± 436									
	I MI OICEM	□ 再調整を行い												
		□ 操作取得まで												
□ 利用者または介護者の意向 □ 福祉用具利用目標の達成または未達成														
判断した理由 山利用者ADL、家族の状況、仕環境等の変化														
	□福祉用具継続利用による危険性							_	_					

次回実施予定日

□ その他

/	/	枚	١
(	/	仪	)

連携方法

□ サービス担当者会議

管理番号	

【モーダリング 内谷 * 傩 認 結 果 ( 計 枻 ) 】 福祉用具の利用状況 (事故、ヒヤリ・ハットの確認)												
事故 の有無	<ul><li>□ なし</li><li>□ あり</li></ul>	ヒヤリ・ハット の有無		7 3 65 7 57 65		使用中止の提案 の再指導	□ 注意喚起 □ その他	起				
事故、ヒヤリ 具体的内容・												
	モニタリング時のADL・前回確認時からの変化の有無											
	変化の有無											
身長	□有□	無	cm	体重		kg						
寝返り	口有口	無 口 つかまらな	:いでできる 🗆	何かにつかまれ	ばできる 🗆 -	一部介助	□ できな	را: ا				
起き上がり	口有口	無 口 つかまらな	:いでできる 🗆	何かにつかまれ	ばできる 🗆 🕆	一部介助	□ できな	را: ا				
立ち上がり	口有口	無 口 つかまらな	いでできる 🗆	何かにつかまれ	ばできる 🗆	一部介助	□ できな	:U\				
移乗	口有口	無 口 自立(介助	はなし) ロ	見守り等		一部介助	□ 全介目	助				
座位	口有口	無 口 できる		自分の手で支えれ	ほじざん コーニ	支えてもらえればでき る 	□ できな	:U\				
屋内歩行	口有口	無 口 つかまらな	いでできる 🗆	何かにつかまれ	ばできる 🗆	一部介助	□ できな	:U\				
屋外歩行	口有口	無 口 つかまらな	:いでできる 🛚	何かにつかまれ	ばできる ロ	一部介助	□ できな	( <u>۱</u>				
移動	□有□	無 口 自立(介助	はし) ロ	見守り等		一部介助	□ 全介目	助				
排泄	口有口	無 口 自立(介助	はし) ロ	見守り等		一部介助	□ 全介目	助				
入浴	口有口	無 口 自立(介助	なし)	見守り等		一部介助	□ 全介目	助				
食事	□有□	無 口 自立(介助	はし) ロ	見守り等		一部介助	□ 全介目	助				
更衣	□有□	無 口 自立(介助	はし) ロ	見守り等		一部介助	□ 全介目	助				
意思の伝達	□有□	無 □ 意思を他者	背に伝達できる □	ときどき伝達でき	·る ロ	ほとんど伝達できな い	□ 伝達できれ	ない				
視覚	□有□	無 □ 見える		目の前のもので える	あれば見 🛘	ほとんど見えない	□ 見えない					
聴覚	□有□	無 □ 聞こえる		大きな声で話せる	ば聞こえ□	ほとんど聞こえない	□ 聞こえない	۸,				
関節可動域障害	□有□	無 口 あり(			)		ロなし					
麻痺・筋力低下	□有□	無 口 あり(			)		ロなし					
高次脳機能障害	□有□	無 口 あり(			)		ロなし					
障害日常生活 自立度	□有□	無口自立	□ J1 □ J2	□ A1 □ A	A2 □ B1	□ B2 □ C1	□ C2					
認知症の 日常生活自立度	□有□	無口自立		Ia □ IIt	о <u>п</u>	a □ IIIb		М				
利用者の	意欲・意向(新	新たな課題やニース	ズ)、身体状況・介	`護環境・住環□	境等の変化、	メンテナンス結果	等を記載					
特 記 事 項												
		他職種へ	のモニタリング糸	吉果の報告・訪	的状況							
連携先		介護支援専門員		他の介護サー				)				
\ <del>+</del> \ <del>+</del> \+	□ 書面 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			□書面□□頭								

□ サービス担当者会議

□ 実施なし

□ 実施なし

# ふくせん福祉用具サービス計画書等

# 改編のポイント

令和4年3月

一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会

# 目 次

1. はし	<sup>)</sup> めに	1
(1)	ふくせん福祉用具サービス計画書等、改編様式作成の背景・目的	1
(2)	令和2年度調査で明らかとなった課題	2
(3)	改編対象とした記録様式	
2. ふく	くせん福祉用具サービス計画書(基本情報)	4
(1)	既存様式における課題	4
(2)	介護支援専門員からの意見・要望	4
(3)	改編の目的・方向性	4
(4)	既存様式からの変更点・改編のポイント	5
3. <i>i</i> s/<	くせん計画プロセスシート	7
(1)	新規作成の目的	7
(2)	作成のポイント	8
4. ぶ<	くせん福祉用具サービス計画書(利用計画)	9
(1)	既存様式における課題	9
(2)	介護支援専門員からの意見・要望	9
(3)	改編の目的・方向性	10
(4)	既存様式からの変更点・改編のポイント	11
5. ふ<	くせんモニタリングシート(訪問確認書)	13
(1)	既存様式における課題	13
(2)	介護支援専門員からの意見・要望	13
(3)	改編の目的・方向性	14
(4)	既存様式からの変更点・改編のポイント	15
6. 本会	会としての今後の取組	19
7. 参表	号資料	20
(1)	【記入例】ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)改編様式	20
(2)	【記入例】ふくせん計画プロセスシート	21
(3)	【記入例】ふくせん福祉用具サービス計画書(利用計画)改編様式	22
(4)	【記入例】ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)改編様式	23

### 1.はじめに

### (1) ふくせん福祉用具サービス計画書等、改編様式作成の背景・目的

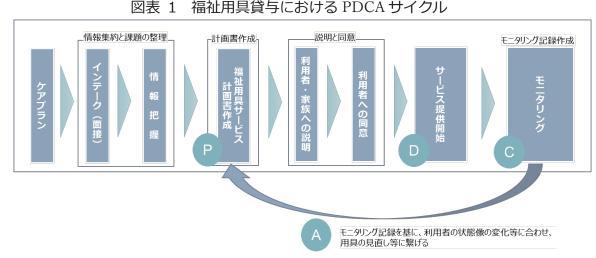
介護保険制度における福祉用具貸与の利用者は200万人を超えています。今後は日本の介 護分野において、介護サービスの需要増加に対する人材確保が急務といわれています。そ の中で、介護現場では効果的な取組とともに、利用者へのサービスの質の向上を両立して いく必要があります。そうした介護現場の取組の中には、福祉用具を使って効果と効率化 を図る試みもされています。

このような背景を踏まえ、介護現場では科学的介護の推進の検討が図られています。厚 生労働省では、大規模データを収集し、そのデータをサービス提供に役立ててもらおうと、 2021 年度から情報システム(LIFE) 'を開始しました。データを活用しサービスの質の向上 を促すためです。

福祉用具貸与サービスは指定基準による福祉用具専門相談員の配置というストラク チャー(構造)があり、2012 年度からの福祉用具サービス計画の義務付けにより PDCA サイ クルのプロセスができたと言えます。しかし現状において、データに基づく福祉用具の提 供によるアウトカム(効果)には、さらなる記録内容の標準化が求められます。福祉用具サー ビス計画及びモニタリングシート等を活用し、PDCA の各場面における記録の可視化を通 じ、標準化を目指し、利用者の状態像の変化等に合わせた、適時・適切な福祉用具の見直 し等に繋げることが重要です。

よって、本会では令和2年度及び令和3年度の老人保健事業推進費等補助金による調査 研究事業を活用し、福祉用具貸与サービスの質の向上に向けて、PDCA サイクルを適正に 回していくために必要な記録様式、記録項目・内容の可視化・標準化を目的としたふくせ ん福祉用具サービス計画書およびモニタリングシートの改編様式の作成を行いました。

本稿では、作成にあたっての現状の課題、改編のポイントを解説します。



福祉用具貸与における PDCA サイクル

(出所)厚生労働省「福祉用具貸与・販売の流れ」を基に事務局にて PDCA サイクルを追記・改編

<sup>1</sup> 厚生労働省 HP 科学的介護 2 2 科学的介護情報システム(LIFE) について (https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/000753792.pdf)

### (2) 令和2年度調査で明らかとなった課題

本会では、令和2年度老人保健事業推進費等補助金において「福祉用具サービスの質の評価データ収集等に係る調査研究事業 | <sup>2</sup>を実施しました。

この調査研究事業は、実際に福祉用具専門相談員が作成した福祉用具貸与計画書やモニタリング記録に記載されている内容を収集し、その記載内容の分析を行い、利用者や家族の自立支援や介護負担軽減に資する福祉用具貸与サービスの質の評価を実施するために必要な項目の整理、方法の策定等の検討を行うことを目的として実施しましたが、現状の様式、記載内容について、以下の課題が明らかとなりました。

### 図表 2 令和2年度調査で明らかになった主な課題

### ○ 記載すべき項目について

- ・各様式の記入充足率にばらつきがある。
- ・福祉用具のモニタリングシートに記録すべき項目は共通化しているものの、<u>福祉</u> 用具専門相談員によって福祉用具のモニタリングにおける視点や評価が異なる。

### ○ 評価結果の記録について

・福祉用具のモニタリングにおける確認結果や目標達成状況の評価結果の記録について共通化されておらず、福祉用具専門相談員による様式への記載にばらつきがある。

### ○ 福祉用具貸与サービスの質の評価について

- ・ 「安全」「安心」など評価しにくい目標が設定されている記載が多く、<u>客観的な</u> 評価や進捗状況の把握が困難である。
- ・ 福祉用具のモニタリングシートにおいて、「目標達成状況」の「達成」「一部達成」「未達成」の基準が統一されていない。また、「身体状況・ADL の変化」、「意欲・意向等の変化」の「変化あり」にチェックをつけても、自由記述を確認しなければ「改善」「悪化」の判断ができない。

上記の課題を解決し、福祉用具貸与サービスの質の評価の検討に向けて、記録項目や記載 内容の基準の可視化・標準化に資する改編様式の作成を令和3年度老人保健事業推進費等補 助金「サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査 研究事業」にて実施しました。

さらに、福祉用具貸与計画書やモニタリング記録は、介護支援専門員を含む多職種連携によるチームケアにおいて重要な情報発信ツールとなることから、介護支援専門員へのアンケート調査を行い、必要としている情報や福祉用具専門相談員への要望等を把握し、改編様式作成の参考としました。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 当会 HP「福祉用具サービスの質の評価データ収集等に係る調査研究事業 報告書」(令和3年3月) (http://www.zfssk.com/sp/1302\_chosa/2021\_index2.html)

### (3) 改編対象とした記録様式

今回、福祉用具専門相談員のサービス提供プロセス及び記録の標準化、また、多職種連携 の促進を目的に以下の記録様式について改編案を作成しました。

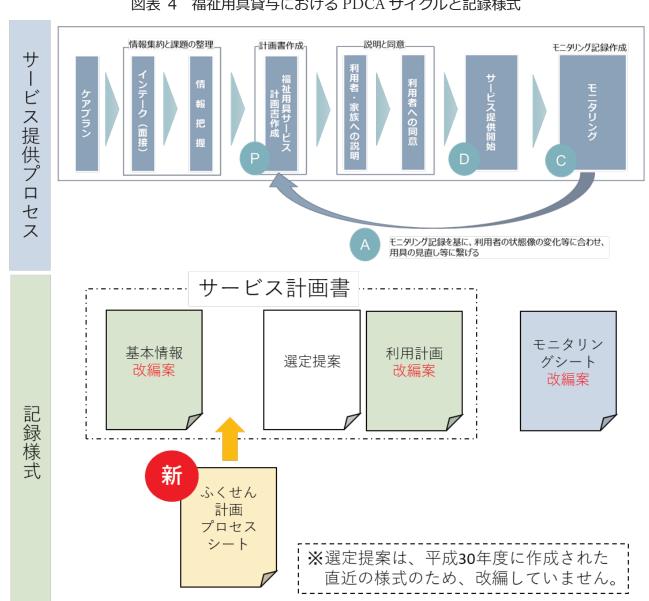
また、今回新たに福祉用具専門相談員が基本情報から得た情報を利用計画に落とし込む際 のプロセスの見える化を目的とした「ふくせん計画プロセスシート」を作成しました。

次章より、各様式に対する令和2年度調査での課題、令和3年度調査を踏まえた介護支援 専門員からの意見・要望、改編の目的・方向性について、具体的にご説明します。

図表 3 改編対象とした記録様式

- ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報、利用計画)
- ふくせん計画プロセスシート ※新規作成
- ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)

図表 4 福祉用具貸与における PDCA サイクルと記録様式



### 2.ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)

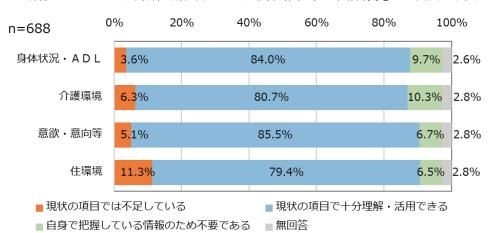
### (1) 既存様式における課題

令和2年度調査で把握された改善すべき課題は、以下のとおりです。

- 記録項目はほぼ統一されているものの、その記入充足率は 100%にはなっていない。
  - ▶ 既存様式において、自由記述となっている「障害高齢者の日常生活自立度」の 記入率は37%、「認知症高齢者の日常生活自立度」の記入率は24%であった。
  - ▶ 利用者の「身体状況・ADL 項目」の記載状況は、13 項目中9項目の記入率は80%を超えているものの、「屋外歩行」「食事」「更衣」「意思の伝達」については記入率が80%を下回っていた。

### (2) 介護支援専門員からの意見・要望

既存の「ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)」の項目である「身体状況・ADL」、「介護環境」、「意欲・意向等」、「住環境」それぞれについて、概ね8割前後の介護支援専門員から「現状の項目で十分理解・活用できる」との評価が得られました。一方で、一部の介護支援専門員からは「現状の項目では不足している」といった回答もありました。福祉用具専門相談員に把握しておいてもらいたい事項としては、利用者の身体状況・ADL等に関する意見・要望が最も多く、具体的には、疾患・既往歴や、病状、服薬状況、認知症の有無・程度等が挙げられました。その他、利用者・家族の意向や介護環境、住環境等についても具体的な状況の把握を望む声も寄せられました。



図表 5 既存の「ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)」の項目に対する評価

### (3) 改編の目的・方向性

上記(1)(2)を踏まえ、利用者の疾病・疾患、禁忌・注意事項などの医療情報について、より詳細な情報を把握・記録いただくことを目的に、項目の追加、選択式への修正を行いました。意欲・意向等は介護支援専門員からの相談内容と合わせ、利用者の状況に適したより効果的な福祉用具の選定につなげていただくことが目的であり、記入充足率の向上を図るために、意欲・意向は最上段にまとめ、医療関連事項も欄を大きく、集約しています。新たに「転倒・転落」「活動・参加」についても設けました。高齢者の事故において多い「転倒」のリスクを少しでも減らすのが目的です。いずれも、福祉用具の選定の際の配慮や検討に役立ててもらうためです。

### (4) 既存様式からの変更点・改編のポイント



【変更点・改編のポイント】改編のポイントをまとめました。記載に当たっての例示や注意事項は 記入例をご覧ください。

### ① 意欲・意向、相談内容

「意欲・意向」は、福祉用具専門相談員として最も重視いただきたい事項であるため、最上段へ移動しました。

### ② 疾病・疾患、禁忌・注意事項・服薬情報等

身体状況等についてより詳細な情報を把握し、福祉用具の選定につなげていただくため、疾病・疾患を記載後、疾病に起因する禁忌・注意事項・服薬情報等を記載する欄を設けました。

### ③ 【新規追加】関節可動域障害・高次脳機能障害・認知症の有無

身体状況等についてより詳細な情報を把握し、福祉用具の選定につなげていただくため、新たに項目を設けました。

### ④ 障害日常生活自立度、認知症の日常生活自立度

令和 2 年度調査において特に記入充足率の低かった「障害日常生活自立度」及び「認知症の 日常生活自立度」を、記録しやすいよう選択式に修正しました。

### ⑤ 家族構成・主介護者

主介護者を明確にすることで、その後の連絡等が円滑になるよう、家族構成と主介護者の記入欄を分割しました。

### ⑥ 【新規追加】転倒・転落の経験

福祉用具の選定の際に重要となる転倒・転落のリスクを把握するため、転倒・転落の経験を確認・記載する項目を新設しました。

### ⑦ 【新規追加】活動・参加

利用者の生活や活動範囲等を把握し、福祉用具の選定につなげるため、外出頻度とその目的・範囲等を確認・記載する項目を新設しました。

### ⑧ 【削除】居宅サービス計画

記入に係る負担軽減のため、介護支援専門員から受領した居宅サービス計画書から転記していただいていた「利用者及び家族の生活に対する意向」及び「総合的な援助方針」の項目を削除しました。

### 9 住環境

福祉用具の選定や搬入等に関わる内容をより具体的に、かつ記録しやすいよう自由記述としていた内容を選択肢に修正しました。

ことせん 塩油	用具サービス語	<u> </u>	管理番号	0000 (No.	)
			作成日	0.0.0	
	基本情報)		福祉用具 専門相談員名	ふくせん太郎	
フリガナ リヨ 利用者か	らの意欲や意向・相	談内容を記載。	H.	認定期間	
利用者名  利用分雜古塔	専門員からの依頼内	□突去「○○介護	3 令和3年1月	1日 ~ 令和4年12月	31日
住所			TEL	0000000	0
文援專門	員からの依頼」など	ことする。	担当ケアマネジャー	00 00	
*** ** ** ***					
意欲や意向・相談内容 利用者の意欲・意向、今困っているこ (福祉用具に期待することなど)	大胆が4.の手術の#	ため入院、状 めまいが強。記載し 川用したい。) 必要な	、疾患に伴う	る情報「疾病・疾 日内変動といった 況、既往歴等を記	注意か
疾病・疾患 大腸がん					
禁忌・注意事項 術後にイレウス	を起こしたが、落ち着い	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ぶん剤の投与。		
	弱った(筋力低下)。		3.11 X 3.0		
身体状況·ADL (令和	4 年 1 月 ) 現在	関節可動域障害	ロ あり(	) 🗹	<i>t</i> al
身長 165 cm 体重	<u>52</u> kg	麻痺・筋力低下	☆ あり(	) 🗆	
寝返り つかまらない 何かにつかまってできる ればできる	□一部介助 □ できない	高次脳機能障害	<ul><li> あり(</li></ul>		なし
		障害日常生活自立度	□自立 □J1 □J2	□A1 □A2 ☑B1 □B2 □C1	1 □C2
起き上がり ロ つかまらない ロ 何かにつかま ればできる ればできる	一部介助 口できない	認知症の有無	☑ なし □ アル	ツハイマー型 □ 血管	性
立ち上がり ロ つかまらない ロ 何かにつかま でできる ロ ればできる		□ レビー小体型 □ その他(			
移乗 □ 自立 □ 見守り等	☑一部介助 □全介助	認知症の日常生活自立度			
(月期など) (月期など) (月期など) (月前など) (月前など) (月前など) (日分の手で支	□ 支えてもらえれ □ できない ぱできる	特記事項 (医療情報以外)		対歩され、ときには花の写 送るのが楽しみとのこと	
<b>屋内歩行</b> つかまらない 何かにつかま ればできる		介護環境			
■ N 上 に □ つかまらない ■ 何かにつかま		家族構成	具様と二人暮らし	主介護者	様
という できる ればできる		W = W = 3±00	B A =#		
移動 口(本品ない) 口見守り等	一部介助 □ 全介助	他のサービス	家族構成と主力	こる介護者は分ける	て記載。
覚・聴覚は、別々にし、自由	記載から 全介助			製様と二人」、「主か	
エック項目にした。福祉用具	の利用に <sub>全介助</sub>	短が田目			
たって、説明が聞こえるか、		(購入品含む)	ま、長女(巾内	在住)」というよう	こに。
				長女が買い物を届ける	などし
等が見えるかという点は重要 	2/13/	でいる	<b>3</b>		
意思の	□ ほとんど伝達 □ 伝達でき できない □ ない	住環境	行が田日利田	にあたり、想定さ	hz!!
	□ ほとんど見え □ 見えない ない	1			
		住まいの状況	ク等を検討す	るための情報とし	て、確
聴覚 □ 聞こえる □ 大きな声で話せば聞こえる	□ ほとんど聞こ □ 聞こえない	<u></u>	認。過去いつ	までかなどは、本	人・家
転倒・転落 転倒 ☑ なし	□ あり→□つまつ	うき □ すべり	の記憶なので	、答えられる程度	て。
の経験 転落 ☑ なし	□ あり→□ 階段	□ 玄関 □ 踏み台			/
外出頻度 □ ほぼ	毎日 □ 週1回	□以上 ☑ 月	1回以上	□ 月1回未満	
千重·	、奥様のご同行のもと介				

利用者の「外出」範囲・目的等を把握することで、福祉用具の利用目的・選定に結び付けて考えてほしい。現在の状況とともに「通院のために外出」という現在の状況とともに、「手術前は月に1回はコーヒーを買いに出かけていた」と以前の状況もわかると、長期的な目標や利用者の意欲を引き出す福祉用具の利用につながる。

### 3.ふくせん計画プロセスシート

### (1) 新規作成の目的

令和3年度老人保健事業推進費等補助金において「サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査研究事業」検討委員会の議論において、福祉用具サービス提供プロセスにおける、福祉用具専門相談員の検討過程が把握できず、アセスメントによる基本情報等の収集から、それらの情報を踏まえ、どのように福祉用具を選定し、利用計画に落とし込んでいるのかが不明確であることが指摘されました。この検討過程を見える化することが求められています。

これらの背景から、今回新たに「ふくせん計画プロセスシート」を作成しました。上段は福祉用具利用に関連する介護支援専門員、各職種らとの相談、支援経過の記載になり、中段は利用が検討される福祉用具の種類と、さらに利用者の基本情報などから、「改善が期待できる ADL」項目にチェックする欄を設けています。また介護支援専門員から要望の多かった住環境の記載欄で構成されています。「基本情報」の住環境は搬入搬出にあたって最小限必要な戸建・集合住宅、エレベータの有無のチェックですが、プロセスシートでは、利用者がどの場面での利用するのかということを考えられ、図示できるよう自由記載にしました。

ふくせん 計画プロセ		管理番号 利用者氏名			
Sivers III Dr		福祉用具 専門相談員名			
介護支援専門員・他	職種との連携、担当	当者会議、支	接経過等の情報	•	
年月日 対応者			内容	<u>-                                      </u>	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	- の利田でお茶が	****** 7 A	DI		
備征用	具の利用で改善が	期付できるA	DL		
【暫定の福祉用具種目・住宅改修】	【改善が期待でき るADLの項目】		が期待できるADL	-の評価(見込	.み)】
福祉用具貸与   □ 車いす □ 車いす附属品	□ 寝返り	ロ つかまらな いでできる	<ul><li>何かにつかまればできる</li></ul>	□ 一部介助	□ できない
□ 早い9 □ 早い9 門属品 □ 特殊寝台 □ 特殊寝台附属品	ロ 起き上がり	ロ つかまらな いでできる	何かにつかまればできる	□ 一部介助	□ できない
□ 床ずれ防止用具 □ 体位変換器	ロ 立ち上がり	ロ つかまらな いでできる	何かにつかまればできる	□ 一部介助	□ できない
□ 手すり(□置き型 □垂直式 □トイレ用) □ スロープ(□固定式 □携帯式)	□ 移乗	ロ 自立 (介助なし)	□ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助
□ 歩行器 □ 歩行補助つえ	□ 座位	□ できる	□ 自分の手で支 えればできる	ロ 支えてもらえれ ぱできる	ロできない
□ 認知症徘徊感知機器 □ 移動用リフト □ 自動排泄処理装置	□ 屋内歩行	ロ つかまらな いでできる	<ul><li>何かにつかまればできる</li></ul>	□ 一部介助	□ できない
福祉用具販売	□ 屋外歩行	ロ つかまらな いでできる	<ul><li>何かにつかまればできる</li></ul>	□ 一部介助	ロできない
□ 腰掛便座 □ 入浴補助用具 □ 簡易浴槽 □ 移動用リフトの吊り具部分	□ 移動	ロ 自立 (介助なし)	ロ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助
□ 自動排泄処理装置の交換可能部品 □ 排泄予測支援機器	□排泄	ロ 自立 (介助なし)	ロ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助
住宅改修	□ 入浴	回自立 (介助なし)	ロ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助
□ 手すりの取り付け □ 段差の解消 □ 床材の変更 □ 扉の取り換え	□ 食事	ロ ロ (介助なし)	ロ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助
□ 使器の取り換え □ その他付帯工事	□ 更衣	自立 (介助なし)	ロ 見守り等	□ 一部介助	口 全介助
判断するにあたり参考となる情報を得た場面	□ 担当者会議	□ 介護支	支援専門員との同?	行訪問	
十つの ラックにのバニグラックによる 日本に はに物田	□ 単独訪問	□ その他	<u>t</u> (		)
	住環境				
【家屋(居室を含む)の	概略図】		【屋内外·周辺環	環境で注意すべ	きポイント】

### (2) 作成のポイント

【記入例】

### ふくせん 計画プロセスシート

福祉用具利用目標及び、福祉用具の選定に関連する必要な情報の記録。支援経過記録や会議録等の要点を記載する。後日の振り返りや担当が変わった際の引継ぎ資料になる。

介護支援専門員・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報									
年月日	対応者	内容							
令和4年1月10日	ООсм	利用者A様の相談あり。R1.1.13に同行訪問の依頼あり。							
令和4年1月11日	ООсм	利用者A様の基本情報をFAXでいただく。							
令和4年1月13日	OOCM、利用者家族	同行訪問、家屋調査							

福祉用	具の利用で改善が	期待できるADL
【暫定の福祉用具種目・住宅改修】	【改善が期待でき るADLの項目】	【改善が期待できるADLの評価(見込み)】
福祉用具貸与	ロ 寝返り	っかまらな
□ 車いす □ 車いす附属品 ☑ 特殊寝台 ☑ 特殊寝台附属品	☑ 起き上がり	っかまらな <mark>☆</mark> 向かにつかま □ 一部介助 □ できない ればできる
□ 床ずれ防止用具 □ 体位変換器	☑ 立ち上がり	□ つかまらな
		□ 自立 □ 一部介助 □ 全介助

介護支援専門員からの情報を基に、暫定の福祉用 具種目を選択。

利用者にとって改善が期待できる ADL は何かを検討し、ある場合は、右の項目にチェックする。

※介護支援専門員からの情報がない場合は、基本 情報から得た情報を基に福祉用具専門相談員が暫 定福祉用具を選定することでも構わない。 左記の暫定福祉用具を利用することで、改善が期待できる ADL の項目を福祉用具専門相談員として検討する。 検討した結果が「利用計画」の目標に繋がり、さらに福祉用具のモニタリング時の状態変化の確認に繋がっていく。なお、福祉用具の導入理由が利用者の状態の維持や介護負担軽減であるなら、本欄のチェックはつけない。

		H	
	□ 手すりの取り付け □ 段差の解消 □ 床材の変更 □ 扉の取り換え	ロ 食事 『日	ョ立 介助なL) - 見守り等 - 一部介助 - 全介助
	□ 床材の変更 □ 扉の取り換え □ 便器の取り換え □ その他付帯工事		自立 介助なL) ロ見守り等 ロー部介助 ロ全介助
	判断するにあたり参考となる情報を得た場面	□担当者会議	介護支援専門員との同行訪問
刊の1970にのためを含むる1月秋で1分に物面		口 単独訪問	福祉用具専門相談員が上記の判断をする
		る際に、どのように情報を得たのかを	
	【家屋(居室を含む)の		
ŀ		<del></del>	◯ チェック。福祉用具専門相談員の判╚

【家屋(居室を含む)の 概略図】

「テレビ」 4 A A F ゼット

「テレビ」 4 A A F ゼット

「カーロー 4 A B F T T A

福祉用具の設置場所や、利用者の動線など、家屋内において把握しておくべき場所の概略図(ラフ図)を記録。 扉や段差等、危険な場所等。外出用の車いすや歩行器など室内で使用しないものについては、玄関から屋外への環境を記載する。置き場所と危険個所の確認になる。 ・室内はフローリングで段差なし・開き戸が多く歩行器操作技術の取得が必要

と情報収集の根拠を残しておくため。

利用者の生活範囲等を把握し、事故防止に向けた検討につなげる。室内環境は、初回面談等で見せてもらうことが難しいときは、無理に対応しない。利用者との関係構築が先。

### 4.ふくせん福祉用具サービス計画書(利用計画)

### (1) 既存様式における課題

令和2年度調査で把握された改善すべき課題は、以下のとおりです。

- 記載されている内容が、利用者にとって分かりやすく具体的な内容になっていない。
- 利用目標を設定する上では、客観的な評価や進捗状況の把握が可能となるよう定量的な目標を設定することが重要であるが、「安全、安心」等、評価が困難な記載が散見された。
- 現状の様式は自由記述が多く客観的な評価が困難である。
- 記入充足率が 100%になっていない、かつ、記載されている内容がガイドラインに即していない。

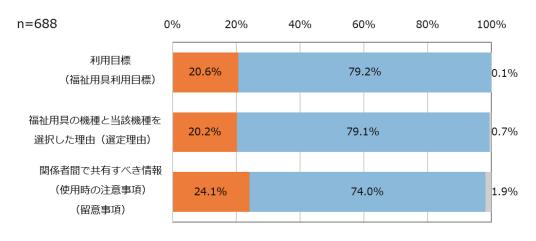
### (2) 介護支援専門員からの意見・要望

既存の「福祉用具サービス計画」(ふくせん様式に限らない。ふくせん様式では「利用計画」を指す。)の項目である「利用目標(福祉用具利用目標)」、「福祉用具の機種と当該機種を選定した理由(選定理由)」及び「関係者間で共有すべき情報(使用時の注意事項)(留意事項)」の記載内容に対して、約70~80%の介護支援専門員から「現状の記載方法で十分理解・活用できる」との評価が得られました。

一方、約 20%の介護支援専門員からは「現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい」といった評価を受けており、よりわかりやすい・活用しやすい方法として、「利用目標(福祉用具利用目標)」については、「「自立支援」「介護者負担軽減」等、目標の位置づけが把握できるとよい」、「福祉用具の機種と当該機種を選定した理由(選定理由)」については、「機種別の特徴や違いが簡易に把握できるとよい」、「関係者間で共有すべき情報(使用時の注意事項)(留意事項)」については、「誤操作や事故の危険性についての注意事項」といった意見・要望が最も多く挙げられました。

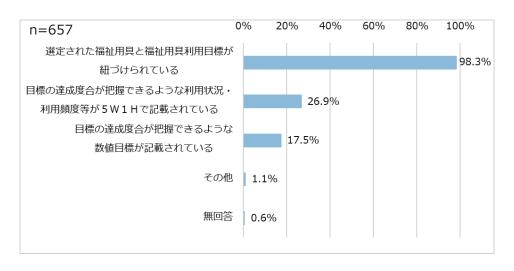
また、「利用目標(福祉用具利用目標)」については、95%以上の介護支援専門員が「居宅サービス計画書の目標に紐づいた福祉用具利用目標が記載されている」と評価している一方で、具体的な記載内容については、「目標の達成度合が把握できるような利用状況・利用頻度等が5W1Hで記載されている」、「目標の達成度合が把握できるような数値目標が記載されている」との評価は30%以下にとどまっており、目標の達成度合が把握できるようなより具体的な福祉用具利用目標の記載が求められています。

図表 6 「福祉用具サービス計画」の記載内容に対する評価



■現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい ■現状の記載方法で十分理解・活用できる ■無回答

図表 7 「利用目標(福祉用具利用目標)」の具体的な記載内容

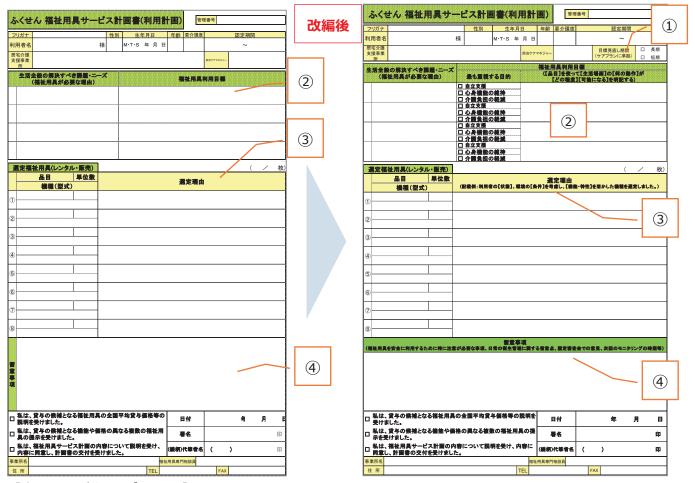


### (3) 改編の目的・方向性

上記(1)(2)を踏まえ、「生活全般の解決すべき課題・ニーズ(福祉用具が必要な理由)」に対し、「福祉用具利用目標」を検討する際、具体的にどのような効果を期待して目標を立てるかを明らかにし、より具体的な「福祉用具利用目標」を利用者にもわかりやすく記載することを意識してもらうための補足説明を追記することとしました。

また、介護支援専門員からの要望としてあった「機種別の特徴や違いが簡易に把握できるとよい」や、「誤操作や事故の危険性についての注意事項」の記載についても、福祉用具専門相談員としてより具体的に記載することを意識してもらうために補足説明を追記しました。

### (4) 既存様式からの変更点・改編のポイント



### 【変更点・改編のポイント】

### ① 【新規追加】目標見直し期間(ケアプランに準拠)

福祉用具利用目標の達成状況を定期的に評価し、目標の見直しを図ることで PDCA サイクルを回していくことができます。福祉用具の利用目標は、介護支援専門員から受領するケアプランと連動するものであるため、ケアプランに準拠し、「短期目標」「長期目標」のいずれかを選択する項目を設けました。

### ② 福祉用具利用目標

「最も重視する目的」の欄を追加し、福祉用具利用目標を記載するにあたり、「自立支援」「心身機能の維持」「介護負担の軽減」のどの項目を最も重視して目標を立てるか意識付けのための項目を設けました。

補足説明として「利用目標」に「【品目】を使って【生活場面】の【何の動作】が【どの程度】【可能になる】を明記する」と明示しました。計画を作成するのはベテランとは限りません。福祉用具専門相談員の経験年数や研修などによる記載のバラつきをなくすためです。

### ③ 選定理由

福祉用具専門相談員として、なぜこの福祉用具を選定したのかを具体的に記載してもらうために記載例:利用者の【状態】、環境の【条件】を考慮し、【機能・特性】を活かした機種を選定しました。」を補足説明として追記しました。

### ④ 留意事項

項目を設定したもともとの目的は「福祉用具を安全に利用するために特に注意が必要な事項、 日常の衛生管理に関する留意点」の記載でしたが、福祉用具専門相談員による記載漏れをなくす こと、さらに介護支援専門員からの要望としてあった「誤操作や事故の危険性についての注意事 項」の記載というご意見も参考に、補足説明を追記しました。

### ふくせん 福祉用具サービス計画書(利用計

性別

福祉用具の利用目標は、介護支援専門員から受領するケアプランと連動するものであるため、ケアプランに準拠し、「短期目標」「長期目標」のいずれかを選択。

福祉用具利用目標を記載するにあた

り、最も重視する目的を明確にするた

め、1つだけにチェックを入れる。

男性	M·T·⑤19年8	8月15日		<del>32</del> /1020	127120	771711111111111111111111111111111111111		
00		担当ケアマ	担当ケアマネジャー ○○○		0	目標見直し期間 (ケアプランに準拠)	□ 長期 ☑ 短期	
	#####################################							

生活全般の解決すべき課題 (【品目】を使って【生活場面】の【何の動作】が (福祉用具が必要な理由) 最も重視する目的 【との程度】【可能になる】を明記する) ☑ 自立支援 □ 心身機能の維持 自宅での起居動作を一人で行いた 特殊寝台・付属品を使用しベッドからの起き上がり動作が、自 分一人でできるようにし、離床回数を増やしていく □ 介護負担の軽減 ☑ 自立支援 自宅内での移動動作を一人で行い 歩行器を使用し自宅内を歩けるようにすることで、転倒のリス □心身機能の維持 クを浦入 <del>以白公ででき</del>るようになる

生年月日

補足説明に従い、具体的な福祉用具の種類(品目ごとに利用目標を記載。なお一体的な利用が想定される付属品は、一緒に記載してよい。生活動作の改善ではなく、介護負担軽減が目的の場合は、特殊寝台・付属品を使って「ベッドでの起き上がり、食事介助にかかる妻の腰にかかる負担を軽くする」と生活場面の何の動作に関する負担軽減が期待できるのかを書く。

			1 1 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11
	品目	単位数	選定理由
	機種(型式)		(記載例:利用者の【状態】、環境の【条件】を考慮し、【機能・特性】を活かした機種を選定しました。)
	特殊寝台	000	腹部に力を入れずに体を起こせる背上げ機能と、立ち座りの動きを電動高さ調節機能で補
1	00^v/		助できる特殊寝台を選定しました。
4	特殊寝台付属品	000	ご本人がベッドから落ちて怪我をされないように、ベッド本体の規格と適合するサイドレー
'	○○サイドレール		ルを選定しました。
4	特殊寝台付属品	000	寝返りや起き上がり、立ち上がりの動作を支入でき、歩行車に移るときに支持部が

しました

やすい。

が利くよ

利用者、家族及び介護支援専門員等に認識しておいて 欲しい事項について、補足説明)に従い、具体的に記 載。注意事項は、わかりやすく記載する。利用者の状態によってはケアプランの目標見直し期間よりも早く に福祉用具のモニタリングすることも考えられるた め、必要な利用者には次回訪問予定日について記載。 利用者の状態と環境面から、具体的にこの仕様を選定したと選定理由を記載。利用者に渡すものであるため、略語や利用者の状態や疾病に対しては配慮し、わかりやすく記載。

留意事項

(福祉用具を安全に利用するために特に注意が必要な事項、日常の衛生管理に関する留意点、認定審査会での意見、次回のモニタリングの時間を1)

|●特殊寝台について

リモコンはマットレスの上に置いていると誤って触れてしまいベッドが動いてしまうことがありますので、サイドレールに かけてお使いください。

●歩行車について

室内操作の環境を考えて選定しましたが、初めてお使いになるので、定期モニタリングよりも早めに、一度、使用状況を確認のためお伺いしたいと思います(○月頃)。

<ul><li>私は、貸与の候補となる福祉用具の全国平均貸与価格等の説明 を受けました。</li></ul>							00	年 🔾	月(	В
☑ 私は、貸与の候補となる機能や価格の異なる複数の福祉用具の 提示を受けました。					署名 利用者A		用者A		印	
☑ 私は 同意	、福祉用具サービス計画の内容について説明を受け、 し、計画書の交付を受けました。	内容	เเ	(続柄)代筆	者名	(	)			印
事業所名	00000000000		福祉	用具専門相談員		ふくせ	ん太	郎		
住 所	00000000000	TEL	>	<×-××-×	(××	< FA	K	$\times \times - \times$	$\times$ - $\times$ ×	××

### 5.ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)

### (1) 既存様式における課題

令和2年度調査で把握された改善すべき課題は、以下のとおりです。

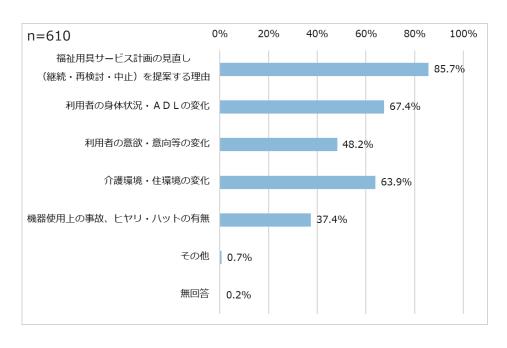
- 福祉用具専門相談員によって福祉用具のモニタリングにおける視点や評価が異なる。
- 福祉用具のモニタリングにおける確認結果や目標達成状況の評価結果の記録について 共通化されていない。
- 「身体状況・ADLの変化」、「意欲・意向等の変化」の「変化あり」にチェックをつけても、自由記述を確認しなければ「改善」「悪化」の判断ができない。
- 記入充足率が 100%になっていない、かつ、記載されている内容がガイドラインに即 していない。

### (2) 介護支援専門員からの意見・要望

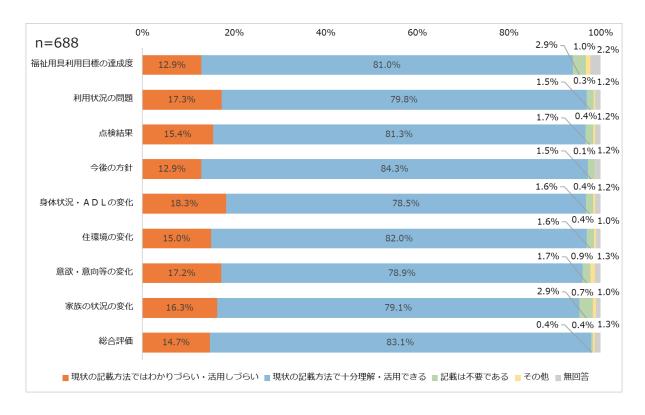
介護支援専門員は、福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果のうち、<u>福祉用具</u> サービス計画の見直し(継続・再検討・中止)を提案する理由や、利用者の身体状況・ ADL の変化等の情報を特に参考としていることが把握されました。

また、既存の「ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)」の項目と評価指標に対しては、全ての項目について、約8割前後の介護支援専門員から「現状の記載方法で十分理解・活用できる」との評価が得られています。一方で、「現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい」との評価も 10~20%程度あり、わかりやすい・活用しやすい記載方法としては、福祉用具利用目標の達成度の基準が示されているとよい、利用状況や点検結果に問題がある場合は、その具体的な問題が記載されているとよい、福祉用具別に計画見直しの必要性が記載されているとよい、前回の福祉用具のモニタリング実施時からの身体状況・ADL の変化が記載されているとよい、等の意見・要望が挙げられました。

図表 8 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果において、参考としている情報



図表 9 既存の「ふくせんモニタリングシート」の項目と評価指標に対する評価

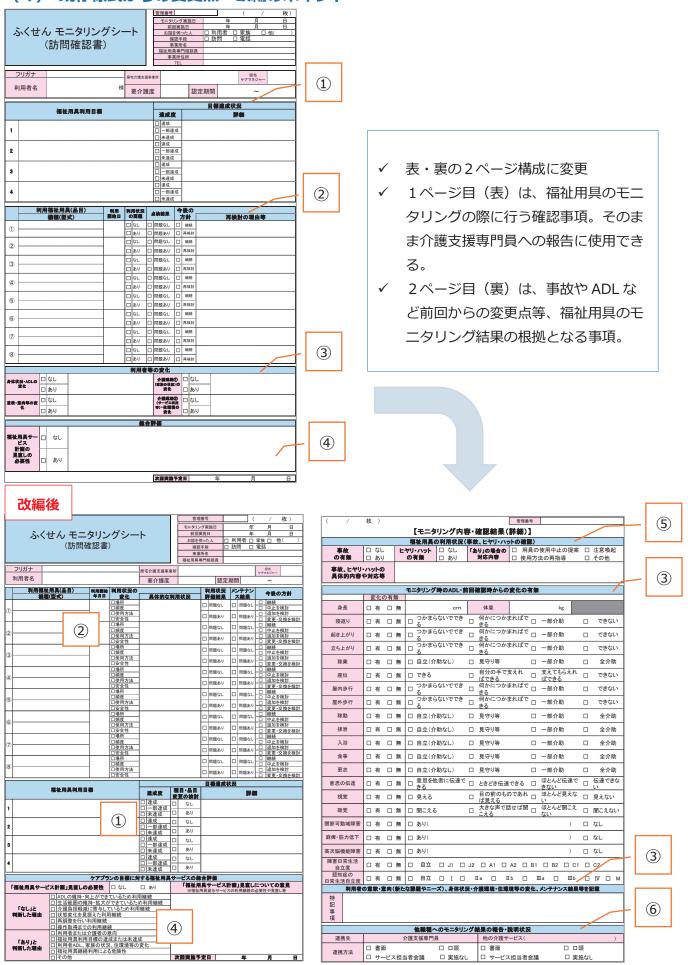


### (3) 改編の目的・方向性

上記(1)(2)を踏まえ、福祉用具専門相談員としてのモニタリング時の評価結果を明確に示すとともに、そのエビデンスについても記録し、介護支援専門員への報告・共有に活用されることを目的としました。

福祉用具専門相談員としての視点で確認した、「利用者の身体状況・ADL の前回訪問時からの変化」等は、これまで記録に残していない内容でした。しかし、実際には福祉用具のモニタリング訪問時に多くの福祉用具専門相談員が確認しており、かつ、前回訪問時からの変化等を踏まえ、福祉用具サービス計画の見直し(継続・再検討・中止)を介護支援専門員へ提案している実態があり、このような取組が福祉用具専門相談員としての専門性によるサービス提供であるといえます。書式と項目は増えましたが、チェック項目にすることで、記載に関わる負担の軽減と、今後のデータ集約に資するようにしました。この様式を活用いただくことで、福祉用具専門相談員ごとに福祉用具のモニタリング時の視点や評価のばらつきを抑制し、更に、適正にPDCAサイクルを回していくことに繋がることを期待します。

### (4) 既存様式からの変更点・改編のポイント



### 【変更点・改編のポイント】

福祉用具専門相談員がモニタリングする際の流れに沿って作成しました。裏面は福祉用具専門相談員が個々に確認している事故、ヒヤリ・ハットの確認結果や対応内容、利用者の身体状況の変化等の把握結果の記録を目的としています。

### ① 目標達成状況

「福祉用具利用目標」別に達成度を評価し、「種目・品目変更の検討」の有無を明示できるよう選択肢を設けました。

### ② 利用福祉用具(品目)別の点検結果等

これまではメンテナンスに関する記録が主になっていたため、福祉用具のモニタリングの記録・確認すべき視点として、「利用状況の変化」「具体的な利用状況」「利用状況評価結果」及び、「今後の方針」について、貸与している用具別に確認し、判断した結果を記録できるようにしました。

# ③ 【新規追加】利用者等の変化 → 福祉用具のモニタリング時の ADL・前回確認時からの変化の有無

基本情報の ADL(初回の福祉用具のモニタリングでない場合は前回の福祉用具のモニタリング時の ADL)と比較し、変化の有無を総合評価のエビデンスとして記録しておくため、新たに項目を設けました。

また、これまで自由記述で記録していた情報は「特記事項」として自由に記載できるように 変更しました。

### ④ 総合評価 → ケアプランの目標に対する福祉用具サービスの総合評価

これまでは、「福祉用具サービス計画の見直しの必要性」の有無と自由記述のみであり、自由記述において見直しの必要性に関する理由を明確に記載できていない事例がありました。よって、今回の見直しにより、「「福祉用具サービス計画」見直しの必要性」の有無とその理由について、想定される理由を選択肢の中から選べるようにし、別途、自由記述欄(「福祉用具サービス計画」見直しについての意見)を設けることで福祉用具専門相談員としての判断を適切に介護支援専門員に提示できるようにしました。

### ⑤ 【新規追加】福祉用具の利用状況(事故、ヒヤリ・ハットの確認)

福祉用具に関連する事故防止は、課題です。これまでのふくせんモニタリングシートには記録できる欄はありませんでしたが、現場の福祉用具専門相談員は個々に確認している実態があり、更にリスクに関する情報は多職種連携において重要な情報です。よって、記録項目として新たに項目を設けることで、福祉用具のモニタリング訪問時の必須確認項目とし、積極的なリスク把握を促し、福祉用具の見直し、再指導等が適切に実施できるようにしました。ヒヤリ・ハットは利用者・家族もあったとしても忘れているかもしれませんが、福祉用具専門相談員が確認することで、「危険」に気が付く機会となります。

### ⑥ 【新規追加】他職種への福祉用具のモニタリング結果の報告・説明状況

多職種連携に資する情報を含めることも念頭に置き、新たに項目として入れました。福祉用 具のモニタリング結果の報告・共有については、口頭のみで実施しているケースもあります が、介護支援専門員だけでなく、本様式を多職種連携のツールとして活用してもらうことを意 識付けるために、新たに項目を設けました。

					管理	音号	0000	,	1 /	1 枚	
					モニタリン		令和4		2月	28	日
ふ	くせん モニ	ニタリン	グシー	· <b>卜</b>	前回割お話を何		☑ 利用者	年	宮佐 口	Ath (	E \
	(訪問	確認書)	)		確認		☑ 利用名		電話	115(	,
					事業		(	00	000	0	
					福祉用具導	門相談員		ふく	せん太	郎	
フリガナ	リヨワ	ウシャエー		居宅介護支援事業所	f	0000	)		担当 ケアマネジャ		00
利用者名	<b>利</b>	川用者A		要介護度	要介語	護3 認	定期間 슒	03年1	月1日 ~	令和4年	12月31日
	富祉用具(品目)	利用開始	利用状況			利用状法	兄 メンテ	ナ	<u></u>	色の方	<b>₽</b> I
1	<b>農種(型式)</b>	年月日	<b>の変化</b> □場所	具体的な利		評価結果	1		2 継		<b>*</b> 1
D	特殊寝台	令和4年	☑頻度	<ul><li>介助されることなく</li><li>離床できている。</li></ul>		☑️問題なし	. ☑️問題	なし		上を検診	
	00ペッド	1月14日	□使用方法 □安全性	度も多くなったご様	<del>【了</del> 。	□問題あり	□問題	あり	□ 変	10を検診 更・交換	
	朱寝台付属品	令和4年	□場所 □頻度	ペッドから転落され	いることなく利	☑️問題なし	. ☑ 問題	なし・	図 継細	売 上を検診	+
2 00	)サイドレール		□使用方法 ☑安全性	用できている。	5	□問題あり	□問題	 あり	□追力	心を検診	f
d±1	朱寝台付属品		口場所	· 起き上がり立ち上:	がい 改垂吽	☑問題なし	. ⊠間題	tri .	₩ 継		
3		令和4年 1月14日	☑頻度 □使用方法	に毎回使用されて	おり、動作時					上を検診 心を検診	
	〇介助パー		☑安全性	の安定が増してい	<b>ි</b>	□問題あり		-	□ 変	更・交換	
4) 特別	朱寝台付属品	令和4年		立ち座り時、縁に多	安定して腰掛	☑間題なし	. ☑ 問題	なし・		上を検診	
	ロマットレス	1月14日	□使用方法 ☑安全性	けられている。		□問題あり	□ 問題	あり	□ 変	ルを検診 更・交換	
	歩行器	<b>△</b> €0.4/±		1		□□問題なし	∠ 問題	なし	口盤	$\sim$	
,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,,	利用継続で問題	ないい, 4	・一一一一	かけの検討(	と 使用。	++1	上、追加	、 3	変史・	交換	)にこ
来、これら(	利用継続で向題 ま中段にあった 最初に確認する	項目だか	、福祉用	具専門相談員	員がモニ	て、   結り	利用状果等を踏	またない	の変化 え判断 □ 変	、 メ ・記 更·交換 売 Lを検討	ンテナ 録。 <del>を検討</del>
来、これら(	よ中段にあった	項目だか	、福祉用 5ることか □場所 □頻度	具専門相談員	員がモニ	に 問題ない 日題あり	利用状果等を踏	またない	の変化 え判断 □ (2) (2) (2) (3) (4) (4) (5) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6	、 メ ・記 更・交換 売 上を検診 回を検診	ンテナ 録。 <del>を検討</del>
来、これら(	よ中段にあった	項目だが項目であ	、福祉用 ることか □場所 □頻度 □使用方法	具専門相談員のおります。	量がモニ テ。	て、   結り	利用状果等を踏り、口間を放け、	況にあり	の変化 え判断 □ 変 □ ## □   p   i i j j j	、 メ ・記 更・交換 売 上を検診 回を検診	ンテナ 録。 <u>を検討</u> ナ
来、これら(	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用	項目だが項目であ	、福祉用 ることか □場所 □頻度 □使用方法 □安全性	具専門相談員のおります。	量がモニ テ。	こ 問題ない 問題あり 日標達り	利用状果等を踏 間題	況 (a) まか	の変化 え判断 □ 変 □ は □ は □ な □ な	メ 記 換売 上を検診 更・交換	ンテブ 録。 <del>を検討</del> ・ ・ ・ ・ を検討
来、これらり	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用	項目だが項目であ	「□場所 □頻度 □使用方法 □安全性	具専門相談員の上段に移行を表しています。	量がモニ 一方。 <b>陸目・品目</b> を更の検討 ない	て、 結野 □ 問題ない □ 問題あい ■ 目標達別	利用状果等を踏り間題をはない。	況はあり	の変化え判断 原動	メ 記 換売 上を検診 更・交換	ンテブ 録。 <del>を検討</del> ・ ・ ・ ・ を検討
来、これら( リング時に) 3 1 特殊寝台・作 が、自分一	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッド しでできるようにし、高	項目だが項目である。 項目である。  「項目である。」  「項目である。」  「可目である。」  「可用である。」  「可用できまする。」  「可用できまする。 「可用できまする。 「可用できまする。 「可用できまする。 「可用できまする。 「可用できます	「 福祉用 5ることか □場所 □頻度 □使用方法 □安全性 □ サイン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	具専門相談員 ら上段に移作 ・	型 1 - 品目 を更の検討 なし 」 あり	て、 結野 □ 問題ない □ 問題あい ■ 目標達別	利用状果等を踏り間題は状況といるとび付属多くなってお	沢のまた ないあり 品を付いる	の変化え判断 図 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	、 メ 記 要 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	ンデブ 録。 を検討 けけを検討
来、これら( リング時に) 1 特殊寝台・作 が、自分ー/ 歩行器を使	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッド でできるようにし、高 用し自宅内を歩ける。	項目だが、項目である。	「「場所」 □場所 □類度 □使用方法 □安全性 上がり動作 きやしていく とで、転倒の	具専門相談員 ら上段に移作 ・	重 <b> </b>	て、 結野 □ 問題ない □ 問題あい ■ 目標達別	利用状果等を踏り間題をはない。	沢のまた ないあり 品を付いる	の変化え判断 図 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	、 メ 記 要 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	ンデブ 録。 を検討 けけを検討
来、これら( リング時に) 1 特殊寝台・作 が、自分ー 歩行器を使	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッド しでできるようにし、高	項目だが、項目である。	「「場所」 □場所 □類度 □使用方法 □安全性 上がり動作 きやしていく とで、転倒の	具専門相談員 ・ら上段に移作 ・ 達成度 ・ 達成 ・ 一 未達成 ・ 一 ま達成 ・ 一 に で で で で で で で で で で で で で で で で で で	重目・品目 更更の検討 なし 」 あり 」 あり 」 あり	て、結り は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	利用状果等を踏り間題は状況といるとび付属多くなってお	沢のまった。 ない あり 詳細をおられ	の変化え判断 変態 無い はまま できます はる 問題がある ままま にまま にまま にまま にまま にまま にまま はる こうしゅう こう	・ ・ 交換 を検え換 使用さい ・ 使	ンテブ 録。 <sup>を検討</sup> た検討 れ、離
来、これら( リング時に) 1 特殊度合・作が、自分一。 歩行器を使	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッド でできるようにし、高 用し自宅内を歩ける。	項目だが項目である。 は成回数を増入します。 なったりと自由語	、福祉用 ることか □場所 □頻度 □使用方法 □安全性 上がり動作 いく とで、転倒の 記述として	具専門相談員会に移行を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	型 1 ・ 品目 を更の検討 ないし 1 あり 1 ない	て、 結り	利用状果等を踏り、口間を放け、対している。	沢のまった。 あり 詳細を対します。 またが はいまま おいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい	の変化え判断を選集を表する。	、 ・ 記 漢語 ・ ・ 交換 使用さ 使 成 ・ 使 が ・ 使 が ・ ・ 使 ・ ・ ・ ・ 使 ・ ・ ・ ・ ・ ・	ンテブ 録。 を検討 れ、離 用で 犬況を
来、これら( リング時に) 8 1 特殊寝台・作が、自分一の 歩行器を使 「ある」「た	は中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッド でできるようにし、調 用し自宅内を歩ける。 なし」のチェック	項目だが項目である。 は、の記されば、原図数を地域、中である。 は、の記されば、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では	で、転倒の 記述として こ合わせて	具専門相談 ら上段に移在 <b>達成度 達成</b> 「一末達成 「一末達成 「一末達成 「一末達成 「	重日・品目 更の検討 かし 」 なし 」 なし 」 なし 」 あり 」 なし	て、結りは、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が	利用状況を踏り、日間を表する。	況 まっぱ あり <b>詳細を</b> にり 目 ら	の変化え判断を選集を表する。	、 ・ 記 漢語 ・ ・ 交換 使用さ 使 成 ・ 使 が ・ 使 が ・ ・ 使 ・ ・ ・ ・ 使 ・ ・ ・ ・ ・ ・	ンテブ 録。 を検討 れ、離 用で 犬況を
来、これら( リング時に) 8 1 特殊寝台・作が、自分一の 歩行器を使 「ある」「た	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッド でできるようにし、調 用し自宅内を歩ける。	項目だが項目である。 は、の記されば、原図数を地域、中である。 は、の記されば、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では	で、転倒の 記述として こ合わせて	具専門相談 ら上段に移在 <b>達成度 達成</b> 「一末達成 「一末達成 「一末達成 「一末達成 「	一丁。	て、結りは、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が、一個類が	利用状果等を踏り、口間を放け、対している。	況 まっぱ あり <b>詳細を</b> にり 目 ら	の変化え判断を選集を表する。	、 ・ 記 漢語 ・ ・ 交換 使用さ 使 成 ・ 使 が ・ 使 が ・ ・ 使 ・ ・ ・ ・ 使 ・ ・ ・ ・ ・ ・	ンテブ 録。 を検討 れ、離 用で 犬況を
来、これら( リング時に) 8 1 特殊寝台・作が、自分一の 歩行器を使 「ある」「た	は中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッド でできるようにし、調 用し自宅内を歩ける。 なし」のチェック	項目だが 項目であ からの起きが 健床回数を地 はうにするこ から目的」に	「	具専門相談 ら上段に移作 <b>達成度</b> <b>達成</b> では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	<b>産目・品段</b> <b>産目・品検討</b>	て、結り、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	利用状況を踏り、日間を表する。	況 まっぱ あり <b>詳細を</b> にり 目 ら	の変化え判断を選集を表する。	、 ・ 記 漢語 ・ ・ 交換 使用さ 使 成 ・ 使 が ・ 使 が ・ ・ 使 ・ ・ ・ ・ 使 ・ ・ ・ ・ ・ ・	ンテブ 録。 を検討 れ、離 用で 犬況を
来、これら( リング時に) 1 特殊度合・作が、自分を使り ある」「た 利用目標のする。この:	は中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッド でできるようにし、調 用し自宅内を歩ける。 なし」のチェック	項目だが 項目であ からの起き。 様味回数を増 ようにするこ クと自由記 の目的」に	「	具専門相談の	T に は か に か い い い に か い い い い	て結り、「は、「は、」では、「は、」は、は、は、は、	利用状というには、およりには、およりには、ないのは、は、ないのは、は、ないのは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	況まなり 詳細を利に 目 いる し	の変化え判断を制度を表する。	メ 記 変 使用さ 使用さ での意	ンテブ 録。 を検討 れ、離 用で 犬 有無を
来、これら( リング時に) 1 特殊度合・作が、自分を使り 「ある」「たる。」 利用目標のする。このに	は中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用レベッド でできるようにし、調 間に自宅内を歩ける。 はし」のチェック 場合のチェック	項目だが、項目であからの起きがようにすること自由はである。	「場所」 「場所」 「関連用方法」 「中国領域を用方法」 「中国域を用方法」 「中国域を用方法」 「中国域を上がり動作。 いていくとで、転倒の ここ合かしているとしてこった。	具専門相談員 ら上段に移作 達成成 を達達の では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	T に は か に か い い い に か い い い い	て結り、「は、「は、」では、「は、」は、は、は、は、	利用状というには、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、およびからは、おはいは、おはいは、おはいは、おはいは、おはいは、は、は、は、は、は、は、は	況まなり 詳細を利に 目 いる し	の変化え判断を制度を表する。	メ 記 変 使用さ 使用さ での意	ンテブ 録。 を検討 れ、離 用で 犬 有無を
来、これら( リング時に) 1 特殊 6 分 が、自分 歩行器を使 「ある」「た 利用目標の する。この: 「福祉用具サ	は中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用レベッドできるようにし、高 用し自宅内を歩ける。 はし」のチェック 「最も重視する場合のチェック	項目だが 項目であることの数を地域にすることを対している。 の必要性の上ができる。 の必要性ができる。 の必要性ができる。	「場所」は 「場所」は 「関係用方法」で 「関係用方法」で でを全性 とで、転倒の に対しているとして できているだめ利いできているだ。	具専門相談員 ・	一世 スを表します。 また は あり は あ	て、結り、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	利用状盤の関係を対しており、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	況ます。より、一直では、	の変化を関連している。	メ 記 変換 連 使 り 達 更 の 意 で の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の こ の	ンテブ 録。 を検討 れ、離 用で を検討
来、これら( リング時に) 1 特殊度合・作が、自分を使り ある」「た 利用目標のする。この:	は中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッドでできるようにし、 同し自宅内を歩ける。 はし」のチェック 「最も重視するは場合のチェック	項目だが 項目であることの数を増 は対しますることを のの上が拡大が のの上が拡大して のの上が拡大して ののを対して のの上がなたりできる。 ののははできる。 ののはできる。 のので。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 のので。 ののでを。 ののでを。 ののででを。 ののでを。 ののででを。 ののででを、 ののでででを、 ののででをでをでを	「場所」は 「場所」は 「場所」は 「関係用方法」で でを全性 とで、転倒の に合わせて こ合かしても できているため利いできているができているができているができているが、	具専門相談員 ・	一世福 一世福 一世福 一世福 一世福 一世福 一世福 一世福	て 活 で に で に で で で で で で で で で で で で で	利用状盤 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	況まった。別におり、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では	の変化 を としる 問題がある。 についる についる についる についる についる についる についる についる についる についる についる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	メ 記 要素 上を検達を使 り、 産 更 の でき ができ	ンテナ 録。 を検討 れ、離 用で を検討 見
来、これら( リング時に) 1 特殊 6 分 5 行 5 行 5 行 5 行 5 行 5 行 5 行 5 行	は中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッドでできるようにし、調 のチェック にしまのチェック はのチェック はのの手に対する はのの手に対し は、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の維持の には、自己の	項目だからの起きは 体体の起きは 体体の数をは なうにすること のの向上が拡大して のの向上が拡大して のの向上が拡大して のの向上が拡大して を対して のの向上が拡大して のの向上が拡大して のの向上が拡大して ののに を対して のののですること ののでする。 ののででする。 ののです。	「、福祉用」 「「「場所」「「関係」「「関係」「「関係」」「「関係」 「「関係」「「関係」 「「大きな」 「大きな」 「大きな」 「ないるため、利力・できるため、利力・機続。	具専門相談員 ・	では、 は、 は	て 結	利用状盤 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	況まった。別におり、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では	の変化 を としる 問題がある。 についる についる についる についる についる についる についる についる についる についる についる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	メ 記 要素 上を検達を使 り、 産 更 の でき ができ	ンテナ 録。 を検討 れ、離 用で を検討 見
来、これら( リング時に) 1 特殊 6 分 5 行 5 行 5 行 5 行 5 行 5 行 5 行 5 行	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべいにできるようにし、 同し自宅内を歩ける。 にし」のチェック による。 のチェック による。 は、カービス計画」見直し の共変態で変わる。 は、カービス計画」見直し の共変態である。 のは、対象には、対象には、対象には、対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対	項目だかずることの 自標 は できた を は できた と の も と の も と の も と の の 向 は な で で で な で な で な で な か な な な な	「、福祉用」 「「「「「「「「」」」 「「」「「」」 「「」「」「」「」 「「」「」「」 「「」「」「」 「「」「」 「「」 「」	具専門相談員 ・	一世福 一世福 一世福 一世福 一世福 一世福 一世福 一世福	て 結	利用状盤 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	況まった。別におり、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では	の変化 を としる 問題がある。 についる についる についる についる についる についる についる についる についる についる についる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	メ 記 要素 上を検達を使 り、 産 更 の でき ができ	ンテナ 録。 を検討 れ、離 用で を検討 見
来、これら( リング時に) 1 特殊 を合うを使うを使うを使うを使うを使うを使うを使うを使う。このに 「福祉用具サートをした理解している。」	ま中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は「でできるようにしけらい。 同し自いの重・エッグ 場合のチェスする は、カービス計画」見直し 「最高のチェス計画」見直し 「最高の単純の範囲担軽を行ぼし、表記を表表を表表する。	項目目である。 「はないでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	「スタートリースででいるがでいる。 「は、住現したいるででは、は、住現した。」 「は、住現した。」 「は、住現した。」 「は、住現した。」 「は、住現した。」 「は、住現した。」 「は、住現した。」 「は、住現した。」 「は、住現した。」 「は、「は、住現した。」 「は、「は、「は、」」 「は、「は、」」 「は、「は、「は、」」 「は、「は、「は、「は、「は、」」 「は、「は、「は、「は、「は、」」 「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、」」 「は、「は、「は、「は、」」 「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「	具専門相談員 ・	To a label to a labe	て 結	利用状 踏 間	況 ま な が	の変化断変機中温変化を見るがある。	メ 記 変 検験を 使り 達 更 の 意等 できず	ンテナ 録。 を検討 れ、離 用で、を検討 見 なりの
来、これら( リング時に) も	は中段にあった 最初に確認する 福祉用具利用 は属品を使用しべッドできるようにし、高 のチェック にしまるのチェック に最合のチェック はあるのが表現する は、カービス計画」見直し ロースは調解を表現する ロースは調解を表現する ロースは、関連の範囲を表現する ロースは、関連を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	項目目である。 「はないでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	「	具専門相談員 ・	To a let a	て 結	利用を はない はない はない はない はない はない はない はい		の え □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	メ 記 変 検験を検 増 り 達 更 での で で で う る	ン 録。 を検討 れ、離 用で を検討 り ないの 容を

	( 1 / 1	枚 )			_		ヒヤリ・ノ	(ットは前	回からの	の有無を	確認。
١.				【モニタリング		בינטו.	」の場合(	こは必要な	対応を記	実施し、 乳	実施内
	±44	☑ なし	T	温祉用具の利用も		一 突を記憶	録しておく	く。事故内	容は事業	美所内で!	共有す
	事故 の有無	M なし □ あり		J・ハット □ な! 有無   ✓ あ!	•	9		びょう にんき しょう			
		_ ~,	1 41 00				,			16亿次。	, 
	事故、ヒヤリ		[対応]	開き戸を開こうとしたと							
	具体的内容	や対応等		ら引き戸への変更を 開き戸の開閉動作に							
			<u></u>								
		変化の有		ニタリング時のAI	DL•前回码	[認時からの	変化の有無	<u>E</u>			4
	身長	☑ 有 □		cm		体重	50	kg			
	寝返り	口有 口	無□	つかまらないででき	*გ □	何かにつかまれ	L いぱできる □	一部介助		できない	
	起き上がり	☑ 有 □	無□	つかまらないででき	' <b>ত</b> ু	何かにつかまれ	ぃぱできる □	一部介助		できない	
	立ち上がり	☑有 □	無□	つかまらないででき	*る	へにつかまれ	ぱできる □	一部介助		できない	
	移乗	$\checkmark$	無□		▔ ▍▆▆ŧ▆▗	火昌にトマ	で まり エリ	田孝 宏切	た	±₩₽₩	⊐ <b>I</b> II
利	用者の身体状況	兄・ADL (ā	こつい	ීජ්		炎員による					
7	、前回の福祉原	田旦の干一	クリ	D to		・ADL につ					
	グ記録(初回の			├─ 福祉用具	ゆモニク	タリング記	録)から	変化が「種	頁」の場☆	合には、	その
				内容を記	己録。						
=	タリングなら	<b>基本情報</b> )	から	変化後の	情報は、	介護支援	専門員等	にも共有す	するとと	もに、事	業所
の	変化の有無を複	福祉用具専	門相	習 で管理し	ているネ	引用者情報	について	も最新情報	艮として!	更新して	お
談	員が確認。			1 き、次回	の福祉を	用具のモニ	タリング	時に活用で	"きるよ <sup>.</sup>	うにする	
	2.		/m		1—1—7	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		37-14713			
	更衣	口有 口	無□	   自立(介助なし)		見守り等		一部介助		全介助	
	意思の伝達	□有□	無□	意思を他者に伝達	できる 🗆	ときどき伝達でき	<b>き</b> る □	ほとんど伝達 い	できな	伝達できない	,3
	視覚	口有 口	無□	見える	_	目の前のもので える	_	ほとんど見え		見えない	
	聴覚	口有 口	無□	聞こえる		大きな声で話せる	けば聞こえ 口	ほとんど聞こ	えない 🗆	聞こえない	
	関節可動域障害	□有□	無□	あり(	1			)		なし	
上	記以外に記録り	しておくべ	き変化	どや、介護支				)		なし	
援	専門員等に共存	有しておく	べき情	<b>髯報について</b>				)		なし	
記	載。特にない	場合には不	要。空	≧欄でよい。	□ J2	□ A1 □	A2 🗆 B1	□ B2 [	□ C1 □	C2	
	日常生活自立度	U 78 U	700			a 🗆 I	[b 🗆	∭a □	Шь □	IV 🗆	м
	利用者の	意欲•意向(名	折たな課	題や二人)、身	体状況・介	護環境・住環	境等の変化	こ、メンテナン	ス結果等	を記載	
	特 屋内移電	の意欲・意向 加は用具を使用し	してでも可	「能な限り自立して行い	<i>いた</i> い。						
		でトイレに行き			-						
	」		でできる。	ようになったため、奥村	鎌の介助が-	-部介助から見:	守りでできるよ	うになった。			
				他職種へのモニ	タリング新	ま果の報告・	説明状況				=
	連携先		介護	支援専門員		他の介護サ		問介護		)	
	連携方法	☑ 書面		<b>Z</b>	頭	□書面			口頭		
			7. 田 坐 老				+口士 //-1		□ 実施なし		
	アチームの一										
±	起生・共有す!	マたみに	=H-1-	ビクトニにせ	ナーナイ	つわ エー	w. カモへI	+7			

### 6.本会としての今後の取組

今回、令和3年度老人保健事業推進費等補助金による調査研究事業を活用し、福祉用具貸与サービスの質の向上に向けて、PDCA サイクルを適正に回していくために必要な記録様式、記録項目・内容の可視化・標準化を目的とした「ふくせん福祉用具サービス計画書」および、「ふくせんモニタリングシート」の改編様式の作成を行いました。

令和3年度の調査研究事業の中でも、現場の福祉用具専門相談員の協力のもと、試行運用を 実施し、改善点等の意見収集・「ふくせん福祉用具サービス計画」への反映を行い、改編したと ころですが、試行運用にあたっては一部の福祉用具貸与事業所に限定されたものであります。 そのため、本様式を本会として公表するにあたっては、引き続き、より多くの福祉用具貸与事 業所に対して改編様式を用いた現場での活用方法等の確認を実施し、現場の福祉用具専門相談 員の知見を収集したうえで、更なる可視化・標準化を目指したいと考えています。

また、令和2年度の調査研究事業において、福祉用具貸与事業所における既存の「ふくせん福祉用具サービス計画書」および「ふくせんモニタリングシート」の使用率をアンケート調査したところ、ふくせん様式を使用している(「一部改編して使用」も含む)と回答した事業所は7~8割であり、残りの2~3割はふくせん様式とは異なる様式を使用していることが分かりました。福祉用具サービスの質の向上に向けて、PDCAサイクルを適正に回していくために必要な記録様式、記録項目・内容の可視化・標準化を目指した様式を作成したとしても、一部の福祉用具貸与事業所のみが使用していては福祉用具サービス全体の質の向上には繋がらないと考えております。そこで、本会が実施している福祉用具専門相談員更新研修(ふくせん認定)や福祉用具サービス計画作成SV(スーパーバイザー)養成研修等を通して、今回作成した「ふくせん福祉用具サービス計画」改編様式を含めてふくせん様式の実用性、有用性を広く普及啓発し、福祉用具サービス全体の底上げに資するよう取り組んでまいる所存です。

以上、本資料を活用頂き、ご意見を頂戴できれば幸いです。

本資料の作成にあたっては、「サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査研究事業」検討委員会委員、国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野 教授東畠弘子 氏 監修の基、作成したものです。

また、「ふくせん福祉用具サービス計画」改編様式の作成にあたっても、事務局案作成の段階から関与いただきました。

この場を借りて深く御礼申し上げます。

## 7.参考資料

### (1) 【記入例】ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)改編様式

	€/+	F Z	之三 ŻIŁ 日	8 <b>8</b> 4	ービス言	<b>上 i</b> 曲i				管理番号	0000 (	No.	)		
	/3) / C	2.70		本情報		1 1241				作成日	0.0	). O			
			<b>(Æ</b>	个 IFI =	FX					福祉用具 専門相談員名	ふくせん	太郎			
フリガナ	リヨワ	<b>ウシャ</b> コ	<b>г</b> —	性別	生年月E	3	年齢	要介護	度	認定期間					
利用者名	利月	用者A	様	男性	M·TS9年8	月15日 78 要介護3			〔3 令	令和3年1月1日 ~ 令和4年12月3					
住所			00	0000	00000	0				TEL	000	0			
居宅介護支援事	<b>事業所</b>		00	0000	00000	担当ケアマネジャー									
意名	次や意向・	相談内	]容												
	意欲・意向,st 用具に期待			だるさと いので	:倦怠感及び	:め入  めまい  用した	院、状態 が強く、 <u>-</u> い。入『	安定し起き上に	退院し がり、3	たが、退降 立ち上がり	者から確認した 完後の抗がん剤 が一人ではな 、転ばないかと	引の副作 かなか	できな		
疾病・揺	<b>失患</b> 大	:腸がタ	<del>ა</del>												
禁忌·注意 ·服薬情			イレウスをこ脚が弱っ		が、落ち着い  低下)。	たため	り退院し	た。抗か	べん剤の	の投与。					
身体	状況・ADⅠ	_	(令和4 4	年 1	月)現在	月	目節可動域	障害	□ đ	あり(		) 🗹	<b>/</b> なし		
身長					52 kg	Į.	森痺・筋力	低下	₹ a	あり(		) □ なし			
寝返り	_ つかまらなし でできる	、 <b>√</b> 何:	かにつかま ばできる	一部介助	□ できない		高次脳機能			あり(		) 🗹 なし			
起き上がり	っつかまらなし でできる	、 <sub>□</sub> 何:	かにつかま 🚽 ばできる	一部介助	□ できない		号日常生活 		_			A1 □A2 MB1 □B2 □C1 □C2 ハイマー型 □ 血管性			
立ち上がり	_ つかまらなし でできる	、 <sub>□</sub> 何:	かにつかま 🚽 ばできる	一部介助	口できない	認知症の有無 □ レビー小体型 □ その他(							)		
移乗	□ 自立 (介助なし)	□ 見 <sup>:</sup>	守り等 🗡	一部介助	□ 全介助	認知症の日常生活自立度 □自立 □ I □ II a □ II b □ II a □ II a □ II b □ II a □ II b									
座位	□ できる	<b>全自</b> : えれ	分の手で支 hばできる	支えてもらえ ばできる	<sup>_れ</sup> □ できない	<mark>(医療情報以外) </mark> 撮って、友達に送るのが楽しみとのこと							=		
屋内歩行	ロ つかまらなし でできる	、 <mark>・</mark> 何: れ	かにつかま ばできる	一部介助	□ できない			環境							
屋外歩行	□ つかまらなし □ でできる	、 <mark>→</mark> 何: れ	かにつかま ばできる	一部介助	□ できない	家	族構成			人暮らし	主介護者	奥	·様		
移動	□ 自立 (介助なし)	□ 見 <sup>:</sup>	守り等 🞽	一部介助	□ 全介助		サ <i>ー</i> ビス 用状況	、一訪問	介護						
排泄	□ 自立 (介助なし)	<b>√</b> 見	守り等 ロ	一部介助	□ 全介助		している				000000000000000000000000000000000000000				
入浴	□ 自立 (介助なし)	□ 見 <sup>:</sup>	守り等 🞽	一部介助	□ 全介助	福	祉用具								
食事	自立 (介助なし)	□ 見 <sup>:</sup>	守り等 ロ	一部介助	□ 全介助		(品含む			市外に住ま	ご長女が買い物を	<u></u> を届ける	ムなどし		
更衣	□ 自立 □ (介助なし)	□ 見 <sup>:</sup>	守り等 🗑	一部介助	□ 全介助	特	記事項	てい		ili y n e Er e		<u>тишту а</u>	0.820		
意思の伝 達	意思を他者( 伝達できる	こ <sub>□</sub> とき	きどき伝達 きる	ほとんど伝 できない	達 <sub>□</sub> 伝達でき ない		住耳	環境							
視覚	□ 見える	■目の前 あれば	前のもので ロ ば見える	ほとんど見 ない	え □ 見えない	/ <del>\</del> +			寺ち家		賃貸 を全体安(	1 A 17EE\			
聴覚	□ 聞こえる	<b>√</b> 大きな ば聞こ	♪声で話せ ロ こえる	ほとんど聞 えない	こ 🗆 聞こえない	仕ま	いの状況		⋾建 ェレベ-			14 階)			
転倒・転落	転倒	1	なし [	コ あり		きロ	すべり	□ <i>₹</i> (	の他(				)		
の経験	転落						関 口 路						)		
活動・	外出頻原		」ほぼ毎				·. +=1	19月			□ 月1回5	ト満			
参加	外出目的	等	川〜剱凹、野	2(様のご	同行のもと介詞	きメクン	ノーを利	出されて	地院さ	れていまる	9 0				

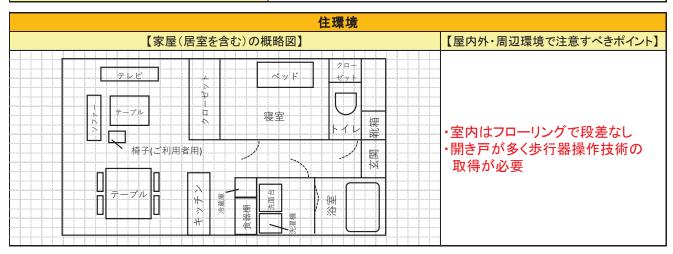
### (2) 【記入例】ふくせん計画プロセスシート

## ふくせん 計画プロセスシート

管理番号	0000
利用者氏名	利用者A
福祉用具 専門相談員名	ふくせん太郎

	介護支援専門員・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報									
年月日	対応者	内容								
令和4年1月10日	OOCM	利用者A様の相談あり。R1.1.13に同行訪問の依頼あり。								
令和4年1月11日	OOCM	利用者A様の基本情報をFAXでいただく。								
令和4年1月13日	〇〇CM、利用者家族	同行訪問、家屋調査								

福祉用具の利用で改善が期待できるADL											
【暫定の福祉用具種目・住宅改修】	【改善が期待でき るADLの項目】	【改善が期待できるADLの評価(見込み)】									
福祉用具貸与	□ 寝返り	□ つかまらな □ 何かにつかま □ 一部介助 □ できない いでできる ればできる									
□ 車いす       □ 車いす附属品         ☑ 特殊寝台       ☑ 特殊寝台附属品	☑ 起き上がり	□ つかまらな									
□ 床ずれ防止用具 □ 体位変換器	☑ 立ち上がり	□ つかまらな									
□ 手すり(□置き型 □垂直式 □トイレ用) □ スロープ(□固定式 □携帯式)	☑ 移乗	□自立									
☑ 歩行器 □ 歩行補助つえ	□ 座位	□ できる □ 自分の手で支 □ 支えてもらえれ □ できない こだできる □ ばできる □ ばできる									
□ 認知症徘徊感知機器 □ 移動用リフト □ 自動排泄処理装置	☑ 屋内歩行	□ つかまらな     何かにつかま □ 一部介助 □ できない いでできる     ればできる									
福祉用具販売	□ 屋外歩行	□ つかまらな □ 何かにつかま □ 一部介助 □ できない いでできる ればできる									
□ 腰掛便座 □ 入浴補助用具 □ 簡易浴槽 □ 移動用リフトの吊り具部分	☑ 移動	□自立 □ (介助なL) □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助									
□ 自動排泄処理装置の交換可能部品	□排泄	□自立 □ (介助なし) □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助									
□ 排泄予測支援機器 住宅改修	□ 入浴	□自立 □ (介助なし) □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助									
口 手すりの取り付け 口 段差の解消	□ 食事	□自立 □ (介助なし) □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助									
□ 床材の変更 □ 扉の取り換え □ 便器の取り換え □ その他付帯工事	□ 更衣	□ 自立 □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助 (介助なし)									
判断するにあたり参考となる情報を得た場面	□ 担当者会議	☑ 介護支援専門員との同行訪問									
TIAL) GICONIC / シリC G GIRTH C MICWIE	□ 単独訪問	□ その他 ( )									



### (3) 【記入例】ふくせん福祉用具サービス計画書(利用計画)改編様式

Š	くくせ	しん 福祉月	月具サー	管理	番号	000	00					
フ	リガナ	リヨウシャ	<u>I</u> —	性別	生年月	日	年齢	要介護度		認定期間	]	
利	用者名	利用者	ŤΑ	様 男性	M•T• <mark>⑤</mark> 19年	8月15日	78	要介護3	令和3年	∓1月1日 ~	令和4年	12月31日
	宅介護 賽事業所	00000	0000	0000		担当ケア	マネジャー	000	00	目標見直し期間 (ケアプランに準拠		長期 短期
1 2	(福 自宅で い	の解決すべき講社用具が必要な での起居動作を一 での移動動作を	<b>理由)</b> 人で行いた	□ 自立支援 □ 心身機能 □ 介護負担 □ 心身機能 □ 介護負担 □ 心身機能 □ 小護負担	®の維持 ○の軽減 ○の維持 ○の軽減	特殊寝 分一人 歩行器	(【品目 【台・付) ででき 『を使用	<b>どの程度</b> 】 属品を使用 るようにし し自宅内	【生活 【可能! 用しべッ 、離床! を歩ける	場面]の[何の雪 になる]を明記す がからの起き上れ 回数を増やしてい るようにすること 移動が自分でで	<b>る)</b> がり動作 いく で、転倒	のリス
3				□ 心身機能 □ 介護負担 □ 自立支援	の軽減							
4				□ 心身機能 □ 介護負担								
選	建定福	祉用具(レンタル	レ・販売)							(	1 /	1 枚)
		品目	単位数				選	定理由				
		機種(型式)		(記載例:利用	者の【状態】、環	境の【条			l·特性】	]を活かした機種を	選定しま	した。)
1	0	特殊寝台 Oベッド			れずに体を起こ 复台を選定しま		手上げ機	機能と、立た	ち座りの	D動きを電動高さ	調節機	能で補
1		殊寝台付属品 〇サイドレール		ご本人がベッドから落ちて怪我をされないように、ベッド本体の規格と適合するサイドレー レを選定しました。								
1		殊寝台付属品 〇介助バー	A		返りや起き上がり、立ち上がりの動作を支えることができ、歩行車に移るときに支持部がちやすい介助バーを選定しました。							
1	特	禁寝台付属品 ○マットレス	&	ベッドからの立ち座りが行いやすいように、ベッドの縁に腰を掛けても沈み込みの少ないマットレスを選定しました。							ない	
2	0(	歩行器 O歩行車		室内移動の安定性と小回りが利くように、ひじ掛けできて、小型タイプの歩行車を選定した。							定しま	
	***************************************											
			000000000000000000000000000000000000000									
			2000									
(†	富祉用具	しを安全に利用する	ために特に注	意が必要な事項	留意事 (日常の衛生) (期等)		する留意	<b>ま点、認定</b> 複	審査会で	₹の意見、次回のモ	ニタリン・	グの時
リ <del>ー</del> か●室	EコンI けてお 歩行車 内操作	受台について はマットレスの上 使いください。 重について Eの環境を考えて かためお伺いした	て選定しまし	したが、初め	てお使いにな							
	を受け	貸与の候補とな けました。					E	3付		00年0	月 C	日 日
Ø	私は、 提示を	貸与の候補とな そ受けました。	る機能や価	i格の異なる	具の	7	<b>署名</b>		利用者A		印	
<u>~</u>	私は、 同意し	福祉用具サービ 、計画書の交付	ス計画の内 を受けまし	容について   た。	说明を受け、[	内容に	(続柄)	代筆者名	(	)		印
事第	美所名	000000	00000	0		福祉	用具専門	相談員	ふくt	せん太郎		
住	所	000000	00000	0	7	ΓEL >	× ×-×	×-××	× F.	AX ××-×>	<-××	××

### (4) 【記入例】ふくせんモニタリングシート(訪問確認書) 改編様式

# ふくせん モニタリングシート (訪問確認書)

管理番号	0000 ( 1 / 1 枚)
モニタリング実施日	令和4 年 2 月 28 日
前回実施日	年 月 日
お話を伺った人	☑ 利用者 ☑ 家族 🔲 他( )
確認手段	☑ 訪問 □ 電話
事業所名	000000
福祉用具専門相談員	ふくせん太郎

フリガナ	リヨウシャエー	居宅介護支援事業所	000	00	担当 ケアマネジャー	00
利用者名	利用者A	要介護度	要介護3	認定期間 令和3年	1月1日 ~ 令和	4年12月31日

	利用者名		要介護度		要介證	養3	認定期	钥間	令和3年	1月1日	~ 令和4年	12月31日		
		[祉用具(品目)	利用開始	利用状況					1用状況		ンテナ		今後の方	솺
	人	種(型式)	年月日	の変化	具体的な	利用	状況		平価結果	ン	ス結果			罗
	4	持殊寝台	令和4年	□場所 ☑頻度	介助されることな	よく自	分一人で		問題なし	$\mathbf{\underline{\sigma}}$	問題なし		継続中止を検討	+
1			1月14日	□使用方法	離床できている								追加を検討	
		OOベッド	.,,,,,,,	口安全性	度も多くなったこ	[禄-	子。		問題あり		問題あり	~~~~~	変更•交換	***************************************
	特別	· 接寝台付属品		□場所				Ì	問題なし	V	問題なし		継続	
2	14 7/1	MX II I JAMAII	令和4年		ベッドから転落さ 用できている。	きれる	ることなく利		1.7.2.0		117,200		中止を検討	
_	00	サイドレール	1月14日	□使用方法 ■安全性	用できている。		問題あり		問題あり		追加を検討 変更・交換			
	杜拉			口場所	起き上がり立ち	<b>⊢</b> ⊀3	11 投垂時	V	問題なし		問題なし		継続	
3	1 <del>च</del> %र	「夜口り周巾	令和4年		に毎回使用され			<u>~</u>	回超なし		问起なし		中止を検討	
•	0	〇介助バー	1月14日	□使用方法 ■安全性	の安定が増して				問題あり		問題あり		追加を検討 変更・交換	
				□場所					· ·		<b>/</b>		发史·父撰 継続	を快討
4	特別	<b>寝台付属品</b>	令和4年	□頻度	立ち座り時、縁し	こ安!	定して腰掛	M	問題なし	M	問題なし		中止を検討	<del></del>
4	0	ロマットレス	1月14日	□使用方法	けられている。				問題あり		問題あり		追加を検討	
				☑安全性 □場所	したの即ち声が	7 BB1	881-8885			_		_	変更•交換	を検討
		步行器	令和4年		トイレの開き戸のがあり、使用でき				問題なし	$\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{\mathbf{$	問題なし		継続 中止を検討	†
<b>⑤</b>		 ○○歩行車	1月14日	口使用方法	環境に合ったも				問題あり		問題あり		追加を検討	
		D 少行单		☑安全性	必要がある。			M	回起めり		问起のツ		変更•交換	を検討
				□場所□頻度					問題なし		問題なし		継続中止を検討	
6				□ 使用方法									追加を検討	
				口安全性					問題あり		問題あり		変更•交換	
				□場所					問題なし		問題なし		継続	
7			-	□頻度 □使用方法									中止を検討追加を検討	
				口安全性					問題あり	□ 問題あり			変更・交換	
				□場所					問題なし		問題なし		継続	
(8)				□頻度					山波。		印版から		中止を検討	
				□使用方法 □安全性					問題あり		問題あり		追加を検討 変更・交換	
	3									2 200			ZX XX	21801
		福祉用具利用目	抽			7番	目・品目	E	標達成划	沈				
		11日本の共刊の日	٦٣٢		達成度		更の検討				詳組	#		
	特殊寝台•付	属品を使用しベッドか	らの起き.	上がり動作	☑ 達成	$\mathbf{\underline{v}}$	なし	特	殊寝台お。	よび	付属品名	キ上手	Fに使用さ	れ、離
1	が、自分一人	、でできるようにし、離り	末回数を均	曽やしていく	□ 一部達成		あり		頻度も多く					
	<u> </u>	リリロ   日   日   日   日   日   日   日   日   日	シーナスー	トで 転倒の	□ 達成	-								
2		し、トイレ、台所までの			□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□		なし			<b>=</b> σ.	開閉に	問題	があり、使	用で
_	うになる	2(1 12 ( 11)) ( 1 ( 12)	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	☑未達成	$\mathbf{\underline{\mathbf{M}}}$	あり	5	ていない					
					□ 達成		なし							
3					□□□部達成		あり							
					□未達成	$\vdash$								
4					□ 達成 □ 一部達成		なし							
7					□ 一		あり							
	1		ケマゴニヽ	の日極にな	する福祉用具	44.	_ピフのw	۸	· 新本					
			1177		9 る価征用具	' ' ' '				- jebi	「日本」	1	いての音	B
Γ.	4= 41 m = · ·	12 I	No. 200 Aut	1 4-1	- L		TO 1 H.	= 1		1001		1	しいしひノ屋	Party.

「福祉用具サービス計画」見直しの必要性 |□ なし ☑ あり ※福祉用具貸与サービスの利用継続の必要性や見直し等 □ ADLの維持・向上ができているため利用継続 □ 生活範囲の維持・拡大ができているため利用継続 歩行器について見直しが必要です。 「なし」と □ 介護負担軽減に寄与しているため利用継続 トイレに開き戸があり、自分で扉を開閉することができない 判断した理由 □ 状態変化を見据えた利用継続 ため使用されておりません。トイレ付近においては手すりの □ 再調整を行い利用継続 設置も視野に再検討が必要と判断します。 □操作取得までの利用継続 ■利用者または介護者の意向 ☑福祉用具利用目標の達成または未達成 「あり」と □ 利用者ADL、家族の状況、住環境等の変化 判断した理由 習福祉用具継続利用による危険性 □その他 次回実施予定日 令和4 **年** 3 月 **31 ∃** 

管理番号	0000

【モニタリング内容・確認結果(詳細)】												
福祉用具の利用状況(事故、ヒヤリ・ハットの確認) <b>事故</b> **  **  **  **  **  **  **  **  **												
事故 の有無	<ul><li>ば なし</li><li>□ あり</li></ul>		ヤリ・ハット の有無	<ul><li>□ なし</li><li>☑ あり</li></ul>		り」の場合の 対応内容		具の使用中			注意喚起 その他	起
事故、ヒヤリ	·· \	トイレ		ー うとしたとき、歩	行器	から両手を離して	てしまい転倒	ー 到しそうになっ	た。			
具体的内容·		開き	戸から引き戸へ			、住宅構造上の「 導を行ってきただ			-			
モニタリング時のADL・前回確認時からの変化の有無												
	変化0	の有無				bye block A		J 7537				
身長	┪	□ 無		cm		体重	5	0 kg				
寝返り	口有	□ 無	ロ つかまらた	いでできる		何かにつかまれ	いばできる	口 一部介	助		できな	い
起き上がり	☑ 有	口無	口 つかまらた	いでできる	$\checkmark$	何かにつかまれ	いばできる	□ 一部介	助		できな	い
立ち上がり	┪	□無	口 つかまらた	いでできる	$\checkmark$	何かにつかまれ	にばできる	□ 一部介	助		できな	い
移乗	┪	□無	口 自立(介助	かなし)	$\checkmark$	見守り等		□ 一部介	助		全介国	助
座位	□有	□ 無	□ できる			自分の手で支えれ	ればできる	ロ 支えても る	らえればでき		できな	い
屋内歩行	□有	□無	口 つかまらた	いでできる		何かにつかまれ	にばできる	□ 一部介	助		できな	い
屋外歩行	口有	口無	口 つかまらた	いでできる		何かにつかまれ	にばできる	□ 一部介	助		できな	(J
移動	┪	□ 無	口 自立(介助	かなし)	$\checkmark$	見守り等		口 一部介	助		全介国	助
排泄	□有	□無	口 自立(介助	かなし)		見守り等		□ 一部介	助		全介国	助
入浴	□有	□無	口 自立(介助	かなし)		見守り等		□ 一部介	助		全介目	助
食事	□有	□ 無	口 自立(介助	かなし)		見守り等		□ 一部介	助		全介目	助
更衣	□有	□無	口 自立(介助	かなし)		見守り等		□ 一部介	助		全介目	助
意思の伝達	□有	□ 無	□ 意思を他	者に伝達できる		ときどき伝達で		⊔ い	ど伝達できな		伝達できる	ない
視覚	口有	口無	□ 見える			目の前のもので える	であれば見	ロ ほとんと	ど見えない		見えない	
聴覚	□有	□無	□ 聞こえる			大きな声で話せる	せば聞こえ	ロ ほとんと	ご聞こえない		聞こえない	۸,
関節可動域障害	□有	□ 無	ロ あり(					)			なし	
麻痺・筋力低下	□有	□ 無	ロ あり(					)			なし	
高次脳機能障害	□有	□無	ロ あり(					)			なし	
障害日常生活 自立度	□有	□無	口 自立	□ J1 □	J2	□ A1 □	A2 🗆	B1 □ B:	2 🗆 C1		C2	
認知症の 日常生活自立度	□有	□無	口 自立	_ I _	]	Ia 🗆 II	[b 🗆	Ша [	⊐ Шb		IV 🗆	М
利用者の	意欲•意[	向(新たな	課題やニー	ズ)、身体状況	兄・介	↑護環境・住環	境等の変	を化、メンテ	ナンス結界	具等を	記載	
特     ・屋内移動       記     ・自分ーノ       事     - ^ ***********************************	、でトイレに		も可能な限り自	立して行いたい	0							
項 ■介護環・ベッドか		一人ででき	きるようになった	ため、奥様の介	·助が·	一部介助から見り	守りででき	るようになった	<b>:</b> 。			
			他職種へ	・のモニタリン	ノグギ	結果の報告・ⅰ	説明状況	?				
連携先		1	<b>↑護支援専門</b>	Ą		他の介護サ	ービス(	訪問介護				)
連携方法	☑ 書面	<u> </u>		☑ 口頭		□書面				頁		
<b>建</b> 捞刀法	ロサー	ービス担当	<b>省</b> 者会議	□ 実施なし	_	☑ サービス	<b>以担当者</b>	会議	□ 実施	をなし		

### 令和3年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査研究事業

ふくせん福祉用具サービス計画書等 改編のポイント

令和4年3月発行

発行者 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 〒108-0073 東京都港区三田 2-14-7 ローレル三田 404 TEL 03-5418-7700

FAX 03-5418-2111

本冊子は、令和3年度老人保健事業推進費等補助金の助成を受け作成したものです。

### サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における 項目の標準化に関する調査研究事業 報告書

令和4年3月発行

発行者 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 〒108-0073 東京都港区三田 2-14-7 ローレル三田 404

TEL 03-5418-7700 FAX 03-5418-2111

本事業は、令和3年度老人保健事業推進費等補助金の助成を受け行ったものです。